

植民地下朝鮮における徴兵制度実施計画と 「国語全解・国語常用」政策（下）⁽¹⁾

熊谷明泰

The Enforcement of the Conscription System and the “*Kokugo-Zenkai* and *Kokugo-Joyo*” Policy in Colonized Korea (Part II)

KUMATANI, Akiyasu

本稿（上）に引き続き、朝鮮総督府の朝鮮語版機関紙「毎日新報」（日刊紙、毎日新報社刊）に1942年7月から9月までの間に掲載された「国語全解・国語常用」政策関連記事を翻訳紹介する。「毎日新報」は植民地下朝鮮に関わる研究を進める上で、重要な資料的価値を有する。しかしながら、植民地言語政策の研究においても、これまでさほど利用されてこなかった。本稿で翻訳紹介する資料は、朝鮮総督府が朝鮮民衆に対して行った「国語」政策の実態を具体的に考察する上において参考になるであろうと考える。

なお、「毎日新報」4面掲載の「国語毎新」の記事、および「毎日新報」の附録として刊行された「日曜附録国語教室」、「日曜版国語教室」、「木曜版国語教室」掲載の記事は、原文が日本語となっており、これらの記事は原文のまま紹介した。

「毎日新報」のマイクロフィルムは、国内では早稲田大学中央図書館に所蔵されている。これは韓国の国立中央図書館との間において、「斉藤実

(1) 本研究は、平成16年度関西大学学術研究助成基金（共同研究）において研究課題「日本の植民地言語政策についての研究—戦時体制構築との関わりに焦点を絞って—」として研究費を受けたものの成果の一部として公表するものである。

関係文書」(55リール)、「米軍没収資料(朝鮮社会運動)」(1リール)との資料交換の形で、1998年8月に早稲田大学に送られてきたものである。このマイクロフィルムには、ソウルで刊行された影印本には収録されていない「毎日新報」の「京城版」や、附録の「日曜附録国語教室」、「木曜版国語教室」も収められている。本稿では、その一部分も収録した。

翻訳にあたっては、資料的価値を生かすために不適切な表現も敢えて原文の通りに反映させておいた。

<資料紹介>

「毎日新報」における「国語全解・国語常用」政策関連記事(日本語訳)

「毎日新報」1942年7月1日付夕刊1面

国語初学者の好伴侶／日曜附録国語教室／毎週1回日曜発行 7月5日始刊

国語の解得は皇国臣民たる者の絶対の義務である。国語を解し得ずして真の皇国臣民ということは出来ない。皇国臣民としての光栄と誇りは国語を解得してこそ始めて持つことが出来る。しかも再来年から半島に徴兵制が実施されることになっているだけに、2,400万民衆は1日も早く、1人残らず国語を解得しなければならない。本社では早くから紙面の一部を割いて国語欄を開設して国語普及運動に努力してきたが、このたび全半島に展開されている国語全解運動に一層拍車を掛けるために、従来の国語欄を一層拡充し、再び新たに国語初学者のための新聞附録を発刊することになった。この国語附録は毎週1回、日曜日付本紙に添付され、全ての読者に無料で配布される。体裁は新聞半折型であるタブロイド型2頁で、国語初学者の学習に適切な形で編集して活字を配置し、国語初学者の読本にもなり、彼らの良き伴侶となるようになっている。識者の支持と鞭撻を願う次第である。

「毎日新報」1942年7月2日付朝刊4面京城版

前進する国語講習／城東隣保館で昨日から開講

国語普及運動に歩調を合わせ、府内上往十里町城東隣保館では城東一帯の婦女子のために国語特別講習会を開いた。この講習会は昨日の1日午後1時に講習生10名が集まり、金田同館長の開講宣言によって開講した。午後1時から4時まで16歳以上35歳未満の家庭の女性たちに初等国語と算術を9月30日までの3か月間講習を行い、皇国臣民としてのことばにおいても、日用品を買う時もすぐに計算できるようにし、容易に初等国民生活を営ませようとするものである。そして、この講習会は同隣保館の職員として在職している玉田、鄭の2女史が主に担うことになり、今後の成果がとも期待されている。（写真は開会式の風景）

「毎日新報」1942年7月4日付朝刊3面

国語常用1割7分／興味ある官公吏家庭の国語常用

一般民衆の指導層である半島人官公吏たちの家庭で国語を常用している状態、および彼らの家族の国語解得の状況はどうなっているだろうか。これを正確に知ることは、今後2,400万民衆に国語常用を奨励するための良き参考資料となるであろうということで、京畿道庁では庁内半島人職員を一斉に調査したが、その興味ある結果が1日、完全に収集された。これは主に□□□半島人職員363名を調査したものだが、そのうち配偶者で日常生活において国語でだけ話すことの出来る婦人の総数は223名、なんとか国語で日常生活が営める程度の婦人は63名、全く国語が分からない婦人は77名で、国語を完全に解する婦人は全体の6分の1強である。また、彼ら職員の直系尊属と卑属955名のうち国語を解得している者の総数は425名で、これは全体の約5割である。ところで、これら職員のうち家庭で国語を常用している人数は63名で、全調査人員の1割7分に過ぎず、未だに国語常用運動は官公署職員たちの家庭から徹底して指導しなければならないという結論が下されることになった。それゆえ、道当局では今後は半島人

職員たちの国語常用を徹底して励行させるために、現在、その具体的対策を研究中である。

「毎日新報」1942年7月4日付朝刊3面

夏休み利用の講習／永信学院でも国語普及運動

【仁川】内鮮一体の具現は、まずことばが通じることから始まらなければならないとして、最近各地で国語普及熱が高まっている。この運動に足並みを揃えて、仁川永信学院では今度の夏休みを利用して国語を講習させようと、去る26日には檜山□仁院長が職員たちに対して、来る7月22日から8月22日まで、夜7時から各家庭の婦人を中心として国語を普及させるように指示したが、一般家庭婦人は可能な限りたくさん出てきて、1字でも学んで他人に引けを取らないようにしてほしいと話している。

「毎日新報」1942年7月4日付朝刊4面京城版

教室のない講習に自宅を率先開放／教員、班長が国語普及に総進軍

皇国臣民として、また軍国の母として国語を知らないことは恥ずかしいことだと、市内の昌慶青年隊蓮池町第2分区長河原良雄氏と同町第10区長久保田修三氏が国語講習会を開くことにして、その場所を探していたが、同町第5班長清水龍治氏が自宅（蓮池町189）を無料で提供するというこことで、力を得た両氏は勇躍この場所で先月8日の大詔奉戴日を期して開講したのである。これまで講習生34名を率いて毎夜7時半から9時半まで熱心に学んでいる。

「毎日新報」1942年7月4日付朝刊4面〔原文のまま〕

お役人と国語

こんど 京畿道の おやくにん の おうちで 国語を どれほど
つかって ゐるか しらべた ところだが 三百三十六人〔ママ。実数
は363人〕のうちに おうちでも みんなが まいにち 国語をつかっ

て むるのが六十三人^{にん} ぜんぜん つかって むない のが七十七人^{にん} あ
った さうです それで これでは いけない と 七十七人のおやくに
ん は さっそく おうちの人の^{こくご}国語れんしふ を はじめたさうです。

「毎日新報」1942年7月4日付夕刊2面

全鮮の各国民学校に国語講習所を附設／徴兵制実施を控え、青少年のため
に

大東亜を指導し、皇国臣民として国語を知らないでいいものかと、半島の民衆たちは自ら進んで国語を学ぼうと務めているところだが、特に徴兵制実施を控えた青少年層の熱意はより切なるもので、雄雄しいところがある。このように燎原の火の如く燃え上がっている国語普及運動に一層の拍車を掛けようと、総督府では男子青少年を対象とした国語講習所を各国民学校に設置しようと準備しているところである。大体の具体案が決定されたので、8日には各道の学務課長と国語普及担任視学の各1名を総督府に召集し、国語講習所開設に関して協議を行うことになった。今回の会議では、小磯総督が強調した教学刷新問題についても協議する予定だが、主に講習所の開設に関して、その具体的運用方針などを協議決定する予定である。学務局案において決定された大体の内容は、先ず全鮮の国民学校のうち約650か所を選定して国語講習所を開設し、できれば8月からでも講習を始めることになるというものである。講習生は徴兵制実施と関連のある男子青少年だけに限定しているが、講習期間は約6か月ずつである。1期の収容定員は40名前後だが、6か月間講習を受けさせて修了生を送り出した後、更に続けて40名を収容し、恒久的に講習を続けていく方針である。講習は夜行われることになるが、国語を教える講師は国民学校の先生と地元の有識者たちが担当する予定である。約6か月の講習で簡単な会話程度はできるようにまで指導することになるが、このようにして1年間に5万余名の青年たちに国語を解得させることになるだろう。そして、予算関係さえ解決すれば、漸次講習所も増設されるものと大いに期待される。

国語のすすめ／フロクができました

二千四百万のみなさんが、だれでも りつばな 皇國臣民であることは いまさら いふまでも ありません。しかし 心の中からはらのそこから 皇國臣民 となりきるには どうしても 国語で つまり 日本のごとばで 暮らさなければ なりません。朝鮮では まだまだ 国語の わからない人が するぶん たくさんあります。この 国語を知らないために 毎日毎日 どのくらゐそん(狼狽)を したり 苦しむことが多いか 知れませんが。本社(毎日新報)では 七月一日から「国語毎新」といふらんを まうけ みなさんの 国語を けいこ(工夫)される おてつだひをしてゐます。しかしこれだけでは 国語を 一つも知らない人には わかりにくいと おもひますから まいしう 日曜ごとにこのやうな 国語のふろくを つけますから 本紙の「国語毎新」とあはせて よくけいこして下さい。このふろくは 一字も 国語を知らない人、一ことも 国語のわからない人のためにも 勉強をすることのできるやうに こしらへて ありますから 國民學校のせいとさんたちが もし そのお家に 国語の少しも わからない お父さん お母さん それからお祖父さん お祖母さん また 兄さん 姉さんなどが あつたなら 一日に一字づつでも よいですから 毎日けいこをなさるやうに おすすめしたり おてつだひをしてあげて下さい。そして 一日も早く 二千四百万の人たちが 国語で うまく お話のできるやうに なつて下さい。これが時局下で 一ばん大切なことです。

アカチャン オ ダイテ コクゴ ノ ベンキョー

— ハイ モーイチド ヨンデクダサイ

— ア、イ、ウ、エ、オ、アーン アーン

— ナンデス カ イマノ コエ ワ……

- 一 ハイ アカチャン ガ ナイタノデス
- 一 アカチャン モ オトナシクシテ コクゴ オ ベンキョーシナサイ
ネ…
- … ミンナ コクゴ オ ハナシ マシヨー ト 老人^{ろうじん}モ コドモ
モ オカーサン モ オトーサン モ ネッシン ニ コクゴ ノ
ベンキョーオ シテイマス。
- コクゴ オ ヨク オボエ テ イツデモ コクゴ デ オハナシ
オ スルヨー ニ ナレバ ソノ トキコソ ホントー ニ コーコ
クシンミン ト シテ トーア ノ ヒトビト オ ミチビク チカ
ラ ガ デキタ トキデス
- シャシン ワ アカチャン オ ダイタ オカーサン マデ ネッシ
ン ニ コクゴ オ ナラッテ イルトコロデス ホントー ニ ナ
ミダグマシイ スガタ デワ アリマセンカ

「毎日新報」1942年7月6日付朝刊4面

儒林青年を選抜／国語講習会開設

【永川】国語は国民の思想と精神から分離し得ない一体のものである。半島人が真の皇国臣民となるためには、半島民衆に国語を解得させ、国語を愛用することが内鮮一体の絶対的条件である。帝国は大東亜共栄圏の確立に邁進しつつ、東亜の盟主として広くその指導的地位に立つ一方、内鮮一体、国家総力戦の一翼を担うこととなった半島民衆は、日夜、国語を使用しなければならないこの時に当たり、永川郡では各機関を通して郡民の国語生活指導方策を樹立した。そして、まず手始めに、郡内の国語未解者である儒林青年50余名を選抜し、永川の文廟に合宿させ、7月10日から3か月間国語講習会を開設することになったが、講師には郡職員と警察署員があたるようである。

国語普及計画

【鎮南浦】国語普及奨励計画を打ち立てるため、鎮南浦府では府内に居住する者で満7歳以上45歳未満の全人口のうち、国語不解者の数を現在徹底して調査しているところだが、この調査を今月中に完了して、各町別に国語講習会を開くようにする方針だという。

「毎日新報」1942年7月8日付4面京城版「国語毎新」欄 [原文のまま]

^{とくべつこうげきたい}
特別攻撃隊しつてゐますか

「特別攻撃隊」をしつて みますか —

ことしの ^{せんもんがくこう} 専門学校の ^{にふがく} 入學しけん を うけた がくせい の なかに「特別攻撃隊」をしらないものがたくさんありことに ^{とくべつこうげきたい} 国語をいつも ^{こくご} つかはない がくせいにそれが おほかったといふことです。ほんたうに なさけない ことです

みなさんは しつて ゐるでせう。

正しいことば

^{こくご} 国語を おほえるには ^{みみ} 耳からきいて おほえるのと ^{ほん} 本(書)を よんで ^め 目からならふのとある。どちらから ならひおほえるにも心をこめて どうしても このことばを おほえなければ ならない といふ ^{つよ} 強い ^{かた} 堅い けつしんでなくてはなかなか おほえられる ものではない。

“ああ めんどうくさい”などといふやうでは とても ^{こうこくしんみん} 皇國臣民とはなれない ^{へいたい} 兵隊さんたちが ^{あつ} どんないところでも ^{なか} ジャングルの中でも ^{いのち} 命がけで ^{おも} すすむことを ^{なに} 思つて何がなんでも おほるといふ心で たとひ ^{いち} 一日に一つのことばでもよい しつかりとおほえる。またおほえるために ^き 氣をつけることは ^{ただ} 正しいよいことばを おほえる ^{くだ} 下らないバカだの ^き コノヤローだのといふことばは いくらおほえても やくには たたない。

「毎日新報」1942年7月9日付朝刊3面

国語全解運動－国民学校講習を常設しようと学務課長会議

徴兵制実施を控え、青少年たちに1日も早く国語を教えなければならぬと、総督府では全鮮の国民学校のうち650か所に国語講習所を常設することになったが、これに関する詳しい内容を協議するため、8日午前9時から総督府第2会議室で各道学務課長と担任視学の会議を開いた。この計画は夜学とし、1期に40名ずつ収容して、半年で国語を解得させるようにしたもので、その成果は大いに期待される場所である。この日の会議では、具体的方針に関して各地方の実情を踏まえつつ色々と協議を行い、午後4時半に散会した。

「毎日新報」1942年7月10日付朝刊3面

国語普及戦の実弾／府内各町会で教材10万部を請求

未だ国語が分からない未解得層の国語熟は日毎に高まり、学校あるいは町会の斡旋により国語講習会が各地で開催されているが、差し迫った問題の一つが教室よりも教材問題である。各町会から去る4月以来、府総力課に国語教材を斡旋して欲しいという要望は毎日のように寄せられており、要望されている教本の数は実に10万部に達している。しかし、京城府聯盟としてはこれほど多くの教材を供給する能力を有していないので、朝鮮聯盟で製作、配布してくれるよう、府聯盟では近日中に正式に要求することになった。講習会は今後も更に数を増やさなければならない状況にあり、その教材も多量に必要とされるので、関係筋ではこれに対し迅速な対策と準備がなされなければならないということである。

「毎日新報」1942年7月10日付朝刊4面中東版

“真の皇国臣民は先ず国語常用から”／京畿道の国語普及運動施策要綱決定

「真の皇国臣民は国語常用から」。京畿道では道内300万道民全員に国語

を使用させ、皇民として恥ずかしくないようにしようと、以前からさまざまな運動を展開してきたところであり、現在も農繁期であるにもかかわらず、夜間には老若男女が村落聯盟を中心に講習会で解得に邁進している。道国民総力課では、これまでこの運動の普及運動施策を講究中であつたが、このほど成案を得た。その要綱は次の通りである。

▼国語常用の雰囲気醸成

- (1) 官庁内では特に国語常用に努め、少なくとも朝鮮語を使用するようなことがないように注意すること。そして会社、銀行、工場、大商店などにおいてもこれに準じること。漸次、この目標に到達するよう最大の努力を払うこと。
- (2) 官公署その他における採用、またはあらゆる機会における人物考試においては、国語生活の状況を十分に考慮すること。
- (3) 各種会合における用語は、必ず国語に依ること。
- (4) 学生、生徒および児童の国語生活を徹底させること。
- (5) 国語の新聞記事愛読を奨励すること。
- (6) 官庁、会社、工場、銀行、商店等の団体では、その職域における徹底方策について研究、懇談を行うこと。
- (7) 店頭取引きを国語化するよう努力すること。
- (8) 広告、看板類の表示は国語で行うこと。
- (9) 国語使用に対する批判的、揶揄的、妨害的態度を取るようなことがないように、十分に施策を講じること。
- (10) 講演、座談会、紙芝居などで国語普及の趣旨を強調すること。
- (11) 標語の普及ビラ・ポスター等の印刷物を配布して、一般民衆に対して国語常用に対する認識をより深めさせること。

▼国語を解する者に対する方策

- (1) 官公署職員は左記〔ママ。原文は縦書き〕に依り、率先して国語生活を行うこと。
 1. 職場の内外、公私を問わず国語を常用すること。

2. 出張する際は、用務の如何を問わず国語普及状況を調査、指導すること。
3. 常用を怠る者に対しては嚴重に戒めて自省を促し、情状を斟酌して上司に告げること。
4. 家庭を速やかに『国語常用の家』と化すこと。
5. 打ち合わせ、その他の会合を持つ時は、発表会、輪読会等を行って国語に習熟させるよう考慮すること。
6. 配布印刷物の利用を徹底させること。
- (2) 新聞、雑誌（国語版）の講読、輪読を奨励すること。
- (3) 解得者はいつも積極的に未解者の教導に努めること。

▼国語を解さない者に対する方策

- (1) 愛国班の協定により、必ず国語講習会に出席させること。
- (2) 創氏による氏名は、必ず国語読みすること。[「京城日報」1942年7月10日付4面京城版掲載記事によれば、「創氏と旧氏名の国語読み」と記されている——訳注]
- (3) 1日1語の習得に努力させること。
- (4) 一旦習得した国語は、常時これを使用するように努めさせること。
- (5) 汽車、電車、自動車の行き先、自分が居住する町の名、班名などは国語読みすること。
- (6) 就学前の児童は簡易児童保育所のような施設を設け、これによって国語を習得させること。
- (7) ラジオ国語講座の利用に努めること。
- (8) 国語講習会の開設は、左記の基準に依ること。
 1. 国民学校附設の国語講習所の開設。
 2. 青年隊国語講習会の開設。
(以上、別途学務系統通牒に依り実施すること)
 3. 儒林国語講習会の開設。
(別途社会課系統からの通牒に依って実施すること)

4. 各種講習会の開設

(イ) 指導者講習会

主催 府邑面聯盟

受講者 町・部落聯盟における国語普及の指導者になれる者

課目 朝鮮聯盟発行『コクゴ』

取扱い (8月下旬発行予定)

期間 2日間

場所 国民学校

指導者 国民学校教職員

経費 道聯盟からそれぞれの邑、面聯盟に対して5円を補助する。

(ロ) 町・部落聯盟国語講習会

○年次計画樹立第1次計画として3ヵ年で全員を初歩の国語解得者にするものであり、第1次は国語を解さない理事長、班長、青年層、婦人指導層から着手するもので、左記の基準に依ること。

主催 町・部落聯盟

受講者 当該する町・部落に居住する50歳以下とすること。

期間 2か月以上

時季 都市では適宜、農村では農閑期を選ぶこと。

時間 1日2時間

(婦女子はできるだけ昼間を選ぶこと)

会場 学校、集会所、その他適当な場所

指導者 前項の指導者講習会の修了者

教本 朝鮮聯盟発行の『コクゴ』を使用すること

費用 町・部落聯盟の自治的経営に依ること

(ハ) 職域国語講習会

主催 10人以上使用の全ての職場

受講者 職場の従業員

時間 就業前、昼休み、終了後など適宜選ぶこと

指導者 任意に1人を選定するにあたっては、十分に考慮すること

教本 初歩では朝鮮聯盟編著『コクゴ』を使用すること。そして程度
の高い教本2種類は現在総督府で編纂中。

(ニ) 随時の国語講習会

宗教団体、その他多人数で集会を持つ時は、臨機これを利用し、簡易
な講習を行うこと。

(ホ) 簡易児童保育所

主催 町・部落聯盟、時には篤志家

入所 10歳未就学児童

時期・時間 適当に選ぶこと

教育程度 幼児の生活用語から始めること

指導者 篤志家

(ハ) 愛国班常会講習会

愛国班常会には国語の時間を設けて打ち合わせ、周知事項において適
当な語句を選んで講習すること。

(9) その他

『国語常用の家』など、国語常用者または国語普及に功勞のある者など
を表彰すること。

「毎日新報」1942年7月11日付夕刊2面

仁川花水町会で国語講習開催

【仁川】最近、各地の国語普及熱が高まるや、仁川府花水町町会では来る
20日からこの町会内で国語を解し得ない男女を集めて、毎夜1日3時間ず
つ町会の役員たちがこの町にあるファド（花□）学院の教室を借りて講習
を行い、全員会話が出来るように講習を受けさせるということである。

「毎日新報」1942年7月11日付夕刊2面

全鮮邑面長の学力／専門学校以上出身が63名

行政の第1線に立って、民衆と直接接触する邑面職員の素質の如何は行政の效果に大きな影響を及ぼすもので、特に彼らを監督する責任を有している邑面長の手腕と力量は行政を□□していく上で大きな要素となるものである。全鮮2,326名の邑面長に対して司政局で調査した結果をみると、学力は専門学校出身が63名（3%）、中等学校以上が429名（18%）、初等学校以上が1,247名（54%）、漢文書堂587名（25%）となっており、経歴は邑面吏員から昇進した人が絶対多数で半数を占め、官吏からなった人が207名である。国語解得の程度を見ると、邑長は全員解得し、2,220名の面長のうち国語を全く解し得ない人が67名（3%）、事務に支障がない程度に解する人が232名（10%）、十分に解する人が1,921名（82%）となっている。司政局では邑面長と邑面吏員の素質向上と国語普及に関しては、講習会などの適当な方法を研究しているところである。

「毎日新報」1942年7月12日付朝刊4面京城版

妓生、女給営業許可に国語解得が条件／鐘路署で普及策として実施

国語常用は日常、客に最も多く接し、会話を多く交わす機会を持つ妓生、女給から率先せよという趣旨から、鐘路署保安係では管内の各カフェー、バーにいる女給と各券番の妓生たちに対して、いつも国語を使うよう注意を發した。

実際のところ、遊興場では国語を用いる人が少なく、また用いるといっても簡単なことばを話すに過ぎず、さらに客は国語を用いても主人方の女給たちが国語を用いることが徹底していない。このため、一般の国語常用運動を展開する上で遊興街の協力が少ないほうなので、今後はバー、カフェーでは常に国語を用い、客も主人も誰もが国語を用いなければならなくなった。ところで、このような接客業に従事する女給と妓生の中にも未だ国語が分からない女がいるということがわかったが、このように広範に各

種の客を迎えている女給、妓生たちが国語を知らないということは、一つの奇異な現象であるだけでなく、實際上接客業に従事する資格がないものと見なし、今後は国語を知らなければ女給あるいは妓生になろうとする女には、営業許可を与えない方針を定めた。

「毎日新報」1942年7月12日付夕刊2面

国語講習所に限って——道知事の許可不要

国語は大東亜の指導語である。2,400万は共栄圏建設の情熱を国語普及運動にも捧げようと、朝鮮の津々浦々に国語を学ぶ声が満ち溢れている今日、京畿道でもこれに足並みを揃え、去る9日、道内の国語普及運動実施要綱を決定した。先ず国語常用に必要な周辺環境を整えることに重点を置いた後、国語を解する者と解さない者に対する、それぞれの具体的対策を立て、国語を解する民衆には常用を積極的に奨励し、国語を解さない者のためには各府、郡、邑、面、部落ごとに総力聯盟が主体となって、今年度から3か年計画で職域国語講習会、随時国語講習会、愛国班常会講習会、簡易児童保育所、国民学校附設国語講習所、青年隊国語講習会、儒林講習会などを一斉に開設するとともに、再びこれら講習生たちの教授指導の万全を期するために、別途に指導者講習会を開設することとなった。ところで、この中には講習期間の短い臨時的なもの、相当地に長期の常設的なものがあり、従来はこのような類いの講習会はすべて道知事の許可を必要としていたが、今後は国語普及を目的とする講習会であって国語総力聯盟（下部組織も含む）主催のものに対しては、大正2年の朝鮮総督府令第3号（私立学術講習所ニ関スル件）第1条の規定による複雑な手続きを必要とせず、ただ講習所開催の事項を府尹あるいは郡守を経由して道知事に提出するとともに、その写しを所管の警察署長に提出すればよいことになった。なお、提出の書式は次の通りである。

1. 講習の目的
2. 講習の期間及び場所

3. 講習の事項

「日曜附録国語教室」第2号1942年7月12日付1面〔原文のまま〕

国語をおぼえるには

国語をおぼえるにはどうしても「ひらかな」と「カタカナ」とこの二つの文字をならはなくてはなりません。

アイウエオ 아이우에오 あいうえお

これは二とほりここに表にしてありますから諺文とあはせてベンキヤウしてくださいこの“あいうえお”と“アイウエオ”は諺文の“아이우에오”とおなじものでこれは五十一字づつあはせて百二字ありますこれさへおほえれば国語もさうむづかしいものではありません。

「毎日新報」1942年7月13日付4面地方版「国語毎新」〔原文のまま〕

人のことば

世界ぢゆうには日本人のほかにかくさんの人しゆがあるやうにことばもいろいろある。朝鮮にもながい歴史をもつことばがあるけれども今は二千四百万のひとたちがみな皇民となつたのでどうしても国語をつかはなければならぬ。一つのことばをおぼえるといふことはらくなことでないが人は生れた時赤んぼうの時にはことばを一つも知らなかつたが大きくなるにしたがつていつの間にか何でも話すやうになる。唾(뱀어리)のやうにことばを一つもしゃべれなければどんなにふべんかしのれない。小磯總督は朝鮮語をつかつてはならぬとはいはれないけれど一日もはやく国語を一つでも多くおぼえるやうに毎日つとめると一年には三百六十五語おほえられる。

「毎日新報」1942年7月15日付朝刊4面京城版

国語教室に教員を志願／林嬢が大和塾に

軍国乙女の麗しい愛国の至誠を半島児童たちの国語解得に捧げ、竹添町京城大和塾国語講習所に献身奉仕を志願してきた人がある。未だ居間で安らかな夢に浸っている上層階層の若い娘たちに範を示す警鐘を鳴らしているのである。先月19日、同塾の国語講習会には中林町149番地41号の林和枝（25）嬢が無報酬で講師を志望してやってきた。ちょうど青年部の国語講習が始まり教員が足りなくて人を探していたところだったので、感激した同塾では金光主任がゆっくり事情を尋ねたところ、同嬢はかつて府内の明〔星〕女学校を卒業し、一人娘として父母の膝下で家事を手伝っていたが、徴兵制実施を控えて子供も老人も国語を身につけようという叫びが高まっている今日、健全な若い体を持ちながら、奉仕しないでいては世間に対して申し訳ないことだと思い、とうとう同塾を訪ねてきたということである。9日から昼間の班を担当して、国語、刺繍、遊戯などを教えている。（写真は林嬢）

「毎日新報」1942年7月16日付朝刊4面

国語全解戦線

【黄海支社発】去る7月8日、本府で開催された全鮮各道の学務課長会議に出席して10日に帰任した斎藤黄海道学務課長は13日、課長室で道の出入り記者団と会見し、国語全解運動について次のように語った。

朝鮮における半島人の国語全解運動を徹底的に具体化させ、来たる昭和19年度に於ける徴兵令施行期までには、1人たりとも青少年のなかで国語を解さない者が無いようにするため、各国民学校に夜間学校を付設し、国民学校に入学できなかった半島の児童及び青年に対して国語講習を行うことになった。このため、授業は学校の校長、もしくは教員に担当させるようにし、学校ごとに3時間以上の授業を行ない、1か年を2期に分けて、前期は6月16日から12月31日まで、後期は1月1日から6

月15日までとし、全期間を通して450時間は必ず教育することになった。したがって、本道でもこれに準じて国語教育に関する計画を立案しているところで、各国民学校だけでは完全かつ徹底した国語教育を行うことは至難であると考えられるので、地域的に国語講習場を設置させ、距離的に通学が不便な青年及び児童に一人残らず国語を教え、道内で1人も国語を解し得ない者がいないようにする方針である、云々。

【甕津】甕津郡総力聯盟では徴兵制実施を控え、1日も早く国語を普及させる必要性を感じて、去る10日役員会席上で討議した結果、毎月10日を国語常用の日と定め、各官公署は勿論、交通機関とも連絡を取って切符売り場では絶対に国語を使用させることになった。一般の乗客が事前に注意すべきことは、『汽車』や『自動車』に乗るときには朝鮮語で『チャッピー ヨ ハンジャン サプシダ』ということばを、『キップイチマイクダサイ』と言わなければ、切符を買うことが難しくなるだろう。

【兼二浦】兼二浦邑内の各町聯盟、及び各組合では徴兵制実施を控えた皇国臣民として、国語が分からなければこの上もなく恥かしいことだとし、各町内で講習会を開催して婦女子と男子たちに講習中であるが、参加者が大幅に増えて大盛況である。

【平昌】平昌面邑聯盟で7月1日から28日まで警防団本部に男子200名、平昌公会堂に女子300名を集めて、毎日午後9時から1時間ずつ本社刊行の教科書によって国語講習会を開催中であるが、松川郡守、瀧本署長は熱心にも毎夜立ち会って、講師とともに指導督励している。

「毎日新報」1942年7月18日付朝刊4面中東版

燃え上がる国語普及熱

【黄海支社発】黄海道儒道聯合会では本府〔朝鮮総督府－訳注〕の方針に従って、国語普及常用運動の徹底を期すべく、道内の儒林を中心として一般男女の国語未解者に対し国語を解得させるために道内各郡で国語講習会を開催するという事は、既に報じたところである。海州ではこのため

国語講習会を15日から始めることになり、ここに講習会の開講式を府内上町にある明倫堂で挙げる運びとなった。道からは山木知事をはじめとして、長産業部長、府からは井手府尹のほかに各関係官、及び一般有志が多数臨席し、式順に従って一同国民儀礼を終えた後、長国語講習会長の式辞、山木知事の告辞の後、来賓を代表して井手府尹、及び佳山中枢院参議からの祝辞があった後、午前11時頃盛大に式を終了した。

【高陽】高陽郡では同郡儒道会主催で、7月15日午前10時に碧蹄面碧蹄館において儒林80余名が会合し、三和高陽郡守の統裁の下に儒林国語講習の件を討議した結果、各面に儒林国語講習所を設置して60までの老儒林すべてに対しても、国語を速成講習することを満場一致で可決し、午後3時散会した。

【安城】半島2,400万民衆の国語全解運動はまさに高揚しつつあるが、安城郡では権藤郡守、笠原署長が運動戦線において、最先頭で熱心に指導している。朝鮮長老教会安城邑西里教会では今月1日から一般家庭婦人に国語、算術の夜間教授を行ってきたところだが、勉学を渴望していた受講者が毎夜激増し、当初30人前後を目安としていたところ、既に百名以上に達したので、現在2班に分けて同教会幹部諸氏が熱心に教えているところだという。

【抱川】抱川郡では国語常用を徹底指導しているが、一般民衆の模範たる儒林団にまず国語の講習を受けさせ、7万郡民が全て国語を常用するように、儒林国語講習会を開催すべく各面に通牒を發した。

【載寧】載寧邑だけでも国語講習所が2か所に達している。そのうちの1か所は載寧郷約会館で、一般の邑内婦女子を中心としたものであり、もう一か所は芸妓組合で、芸妓とその家族を中心としたものであるが、受講者も相当な数に上り、その効果は至大なものと期待される。

【新幕】新幕は内地人が多く居住している関係で、国語普及が徹底しているところだが、中老以上の者には国語のできない人が多いことから、昨年10月から千代国民学校で国語夜学会を行ってきた。学生は50歳以上で、当

初は世人の嘲笑まで受けたが、堅忍不拔の熱心さで10か月近くの講習を受け、上手に会話のできる人が半数に達し、一般の模範になるほどだという。受講生は50歳以上が7人、50歳以下が3人であるという。

【沙里院】 邑内講習会は数か所あるが、どこも全て満員で、座席の関係上受講できない者が多い。このため、邑内北里第11区聯盟主催で旭国民学校の講堂を借り、講師の白川成雄氏と、かつて国民学校の職員であった白川先生が教鞭をとることになって去る7日から始まったが、受講者は既に約90名に達している。

【束草】 束草面では国語常用督励委員会を設けて諸般の条項をつくり、一般民衆に国語常用を督励することになった。

【江陵】 皇国臣民となりながらも国語を知らなくてもいいのですか。私たち老人たちにも国語講習を受けさせてくださいと、青年にも負けない意気込みで国語解得に努めている今年71歳の老人がいる。この人は江陵邑金谷町に住む玉岡錫兔の父親洪基さんであるが、近頃、国語未解者に国語普及と国語使用が積極的に指導されていることに感激したことから、数日前に木下郡守を訪問し、国語が分からないゆえにもどかしいという自己の胸の内を訴えつつ、老人たちにも特別に講習所を考慮して下さいと嘆願した。木下郡守は感激し、老人特別班も開催すると答えて家に帰した後、去る8日江陵儒道会総会の席上で老人層に対する国語講習問題が再び提起され、各評議員、掌議を始めとして、8月から郡内に特別老人班の形で国語講習が開始されることになった。

「毎日新報」1942年7月18日付夕刊2面

教本90万部配布／燎原の火のような全解国語普及運動

皇国臣民として国語を知らなくても構わないのかと、半島全土では積極的な国語普及運動が燎原の火の如く、いま燃え上がっている。これに呼応して、総督府学務課では8月から全鮮の国民学校のうち、まず650か所に国語講習所を常設することになったが、これとともに昭和13年から始まっ

た国語普及運動にも一層拍車を掛けることになった。これは徴兵制実施を控えてより一層熾烈になったのだが、今年は各部落講習会などに国語教本90万部を配布する予定である。昭和13年以来、例年は代金を受け取る有料が20万部、無料が10万部の内訳で教本を配布し、全鮮の各部落の夜学等の講習会で国語を教えてきたが、今年は一躍有料70万部、無料20万部の合計90万部を配布するほか、それ以前に配布したのものも利用して、積極的に国語解得の総進軍を開始することになったのである。そしてこれとは別途に、朝鮮儒道聯合会でも学務局の指導の下で全鮮の各郡儒道会を総動員し、郷校の財産を利用して儒林とその子弟たちを中心にして国語講習会を開き、1年間に7万名の解得者を獲得することになったことなど、国語普及運動は日に日に高まっている。

「毎日新報」1942年7月22日付朝刊4面京城版
社稷町婦人に国語講習／祥明実践女子学校にて

祥明女子実践学校では国語全解運動に歩調を合わせて、近隣の社稷町に暮らす婦人の中で未だ国語を解さない人々に、同校の教員が総動員され、講習を授けることになった。

「毎日新報」1942年7月24日付朝刊3面
優良国語常用家庭——京畿道で8月15日まで調査表彰

半島全般に亘って燎原の火のごとく燃え上がっている国語普及熱に呼応して、京畿道では沸き上がるこの国語解得熱を更に活発なものにするため、各種講習会、1日1語の実践、学園国語常用の徹底など、さまざまな具体的方法を実施してきたが、再び国語常用の徹底を図るため、国語を常用している半島人家庭を一斉に調査することになった。そして23日、道内の各府尹、郡守に一斉に通牒を發し、8月15日までにそれぞれ最も優良な国語常用家庭を報告させることにした。その結果が収集され次第慎重に審査して、その中から一般民衆の模範となる家庭は表彰する予定であるとい

う。

「毎日新報」1942年7月25日付朝刊4面中東版

国語全解に拍車／本報国語每新・日曜附録を利用／安城郡で管下に通牒

【安城】半島山河の津々浦々で国語全解運動が燃え上がっている現在、安城郡では権藤郡守と笠原署長が第一線で指導、督励している。講習会などを開催する一方、多方面でこの運動の展開が見られるが、本報で発行してきた国語每新と国語附録を各家庭で読むことが何よりも効果的だとして、各邑・面・部落聯盟などにこれに対する周知徹底を通牒し、誰もが前記新聞を多いに利用していただきたいということである。

「毎日新報」1942年7月25日付朝刊4面京城版

婦人愛国班員の国語講習／7月中府聯盟に正式提出されたものだけで6か所

婦人愛国班の国語習得熱は次第に高まり、炎熱のこの7月にも既に府内には新たに6か所の国語講習会が開かれ、「アイウエオ」の声力が強く響いている。大東亜戦争が始まって以来、府内の各町聯盟、各機関が動員され、国語普及運動に全力を傾けているが、この7月に入って新規に講習会開設を京城府聯盟に正式に提出したところだけでも6か所で、その受講人員は婦女子だけで600余名に達した。そして、この国語熱に府聯盟は大変喜んでいる。炎熱の今月新たな出発をした国語講習の陣容を見ると、次の通りである。

- ▼…府内孔徳町38番地の聖潔教会聯盟主催で、今月の5日から開講したが、受講人員は婦女子70名である。この講習会は今年11月15日まで行う予定だとのこと。
- ▼…府内松峴司諫町聯盟では去る10日から安国町徽文学校で約80名を集めて開講したが、期間は来る10月9日まで。
- ▼…府内鐘路5丁目礼智町（鐘路5丁目礼智町）聯盟の国語講習会は、去

る15日から鐘路4丁目の同町会で開講した。受講者は約百名で会期は10月15日までの3か月間である。

▼…また、鐘路中部聯盟では観水町和光教園で去る10日から始まり、来る9月10日までで、受講人員は男女150名。

▼…鳳〔翼〕町の大関町聯盟主催の講習会は、去る9日から約200名の大家族を集めて盛大に開講。国語解得に全員熱心である。講習期間は来る9月30日まで。

▼…南部第1部聯盟では茶屋町の親和学院で25日から開講し、来る10月25日まで続ける予定で、受講人員は60名である。

「毎日新報」1942年7月27日付朝刊3面

国語講習会も集会届提出せよ

【仁川】国語普及運動が各地で展開され、夏休みを利用してこの運動がより一層活発に展開されるが、仁川署高等係ではその趣旨に賛同し、できることなら家庭の婦女子を啓蒙し、大東亜共栄圏完遂の指導人物を育成させるように試みている。しかし、その講習を行うことにして如何なる届け出もしなければ、保安法改正に伴って違反になることが少なくない。今後、国語講習を行おうとする場合、仁川府聯盟にその届けを提出し、府聯盟では警察署と連絡を取って道知事の認可を受けたのち講習を行うように、一般に注意を喚起している。

「毎日新報」1942年7月27日付朝刊4面地方版

本報“国語毎新”を利用／国語全解に邁進／釜山府で各愛国班員に通牒

【慶南支社発】国語常用化のため、慶南道では第1次計画として今年度から3年間、満10歳から40歳の間の107万人を□□するよう計画を立て、各府、郡、邑、面、部落がこの道の方針に従って実践に移した。釜山府でも道の方針に従い、まず釜山府内に国語が分からない人がどれ位いるのか調査した結果、朝鮮人22万人のうち国語が分かる府民が8万人で、残りの14

万人は全く国語が分からない府民であることが判明した。よって府当局では府の独自の立場から彼らの国語全解のために具体案を練っているが、だいたい町ごとに、あるいは組単位で国語講習会を開くことになるかと予想される。そして、府当局では国語全解の一助として、本社の国語毎新を大いに利用するよう、各愛国班員に通牒を發した。

「毎日新報」1942年7月29日付朝刊4面京城版

国語講習を行うとき注意／仁川府学務課で提出を要望

【仁川】夏休みを利用して、各地で国語普及隊を編成し、家庭の婦女子たちにまで啓蒙運動が繰り広げられているが、仁川府学務課では国語普及講習会に対して次のような注意を喚起し、遺憾なく運動の目的達成に邁進するよう指示している。受講生からは授業料や紙筆代など金銭の徴収を一切避けることと、講師の気質、学力、年齢、講習期間などを詳しく記入し、府学務課に提出するよう望むということである。

「毎日新報」1942年7月29日付朝刊4面京城版

仏教仁川聯盟／国語普及運動

国語普及運動に歩調を合わせ、国民総力朝鮮仏教仁川聯盟では、数日前に同聯盟の第1回定期総会で決議し信徒たちに国語を普及させようと、国語未解得者に簡易国語冊子を千部あまり配布し、我が皇軍に日の丸の扇200個と傷痍軍人慰問金20円を献金し、当局を感激させた。

「毎日新報」1942年7月31日付朝刊4面京城版

愛国班単位で全解へ／8月常会から国語講習時間を編入

府民の国語全解を目標として、国民総力京城府聯盟では各町会別に国語講習会を開催させ、多くの収穫を収めているが、今回は毎月開かれる愛国班常会に国語講習時間を編入し、愛国班単位の全解運動を起こすことになった。これについては、府聯盟から8月1日付で各町聯盟に通牒を發し、

8月10日夜に開かれる班常会から実施するように命じた。指導は班員の中で国語を解する班員がこれを担当し、教材は府聯盟から簡易な教材を配布することになり、簡単なことばから1語ずつ習得する講習運動が展開されることになっている。

これとともに、府聯盟では家族全員が国語を用いている「国語常用の家」を調査し表彰することにし、各町聯盟レベルの方面実践部長に29日付で調査を依頼したが、この調査は8月10日までにすべて府聯盟に報告することになっている。そして、10人以上の従業員を使用している職場では、各自、職場国語講習会を開いて国語全解運動に参加するよう、あわせて指示した。

「毎日新報」1942年7月31日付朝刊4面京城版

仁川でも国語常用の家表彰

国民総力仁川府聯盟では国語普及の一助として、各町聯盟を通じて全家族が常に国語でのみ対話を行い、それゆえ日本精神に十分に透徹している家庭を調査した後、優良家庭を表彰することになった。

「毎日新報」1942年8月1日付朝刊3面

国語普及の推進隊に／帰郷学生を総動員——“夏休み”練成と啓蒙で一石二鳥

去る21日に始まった夏休みを利用して、27日まで勤労奉仕に誠意を捧げて体と心を鍛錬した後、全員一斉に懐かしい故郷に帰った一般学生、生徒たちを動員して、いま津々浦々で力強く展開されている国語普及運動の推進部隊にならせるべく、京畿道では何日か前に道内の各公立・私立中学校長に通牒を發し、次のような実践要領を指示した。

1. 夏休みで帰郷する生徒たちに対しては、国民総力聯盟主催の国語講習会に積極的に参加させ、その教師として愛国の誠を捧げさせること。
2. 総力聯盟主催の国語講習会に直接関係しない生徒であっても、郷土の

国語普及運動のために積極的に努力するよう指導すること。

このようにして、道内39,800余名の男女中等学校生徒たちは、それぞれ
邑、面、部落を単位とし、国語講習会の講師として1日1語解得運動の先
陣隊として、または国語常用の模範部隊として夏休みを最も意義深く過ご
すことになった。

「毎日新報」1942年8月1日付朝刊4面中東版

国語每新と日曜附録の反響／初学者の教材として／忠北道聯盟から管下に
通牒

【忠北支社発】徴兵制度実施は2,400万の感激を一層新たなものにし、半島
民衆を分け隔たりのない皇国臣民とした。純良なる皇国臣民として、どう
して国語を常用せずにはいられようか、未だ解し得ない者はどうして1日も
早く国語を習得するよう努力せずにはいられようか。このため、本社では国
語普及運動が積極的に展開され、今日更に加速させ、初学者からでも教材
として使えるよう、去る7月1日付の紙面から従来の国語欄を補充して国
語每新と日曜附録を発行してきた。これは国語普及を奨励する上で機宜に
適った処置であり、また国語普及運動の良き教材であるとして、国民総力
忠北道聯盟では管下の各聯盟に対して利用、周知に特段の努力を傾けるよ
う、去る7月24日付で通牒を発しており、さらに道当局で目下計画中であ
る国語普及運動の教材としてこれを活用することにした。

「毎日新報」1942年8月1日付朝刊4面中東版

国語普及期待／楢原忠清北海道内務部長談

【忠北支社発】本報の国語每新と日曜附録を国語普及運動の教材としてま
で活用するよう決定したことに対して、楢原忠清北海道内務部長は次のよう
に語る。

毎日新報紙上に国語欄を特設してほしいということは、私が以前から言
っていたところだが、貴社幹部の考えと私の考えが合致したようである。

現在、本府で編纂している国語講習教材は至極簡単で、またレベルが低いようなので、これは何日もしないうちに習いきってしまうだろう。国語普及運動は長期に亘って行われるものであるので、その後の教材はどうしようかと思っていたところであったが、貴社が同教材を提供してくれることには、大変感激するところである。もちろん国語によく通じた人に執筆してほしいと思うが、万が一にも国語として不自然な点が絶対に無いようにし、純正な国語を普及させることができるよう不断の努力を払っていただきたい。

「毎日新報」1942年8月1日付朝刊4面中東版

元山府でも各聯盟に通牒

【元山】元山府では7月から国語普及運動に講習会、各学校、愛国班常会などを通して総力を傾けているところであるが、特に本報国語毎新欄と国語日曜附録を広く利用して国語普及と常用に全力を尽くそうとしている。この趣旨を7月29日付で各町・洞聯盟に対し一斉に通牒を発するとともに、来たる8月5日、聯盟常会の実践事項としてこの趣旨の徹底実行を期すことになった。

「毎日新報」1942年8月1日付朝刊4面中東版

常務参与会／開城府聯盟で

【開城】国民総力開城府聯盟では、来たる8月1日午前10時に府委員室で常務参与会を開催し、次のような協議を行うという。

協議事項

- 1 国語全解運動に関する件
- 2 婦人の啓蒙運動に関する件
- 3 国民貯蓄の強化徹底に関する件
- 4 その他の件

「毎日新報」1942年8月3日付4面「国語毎新」欄 [原文のまま]

こくごなら 国語を習ひませう / なつやす あいだがくせい 夏休みの間 せんせい 學生たちが先生

なつやす 夏休みで くにに かねてゐる けいきどうない 京畿道内の かくせい 學生たちは この
ま、 あそんで みては もったいないと みんな そうりよく れんめ
いしゅさいの こくご 国語 こうしゅうかいで こくごを おしえることにな
りました。そのほかにも ふだん こくご 国語をつかふやうに すすめたり、も
っと こくご 国語を ひろめる ために つとめたりして あいこく 愛國のまことを
さ、げる ことになつてゐます。いちにち 一語づつで みんな 一生 け
んめいに こくご 国語を おぼえませう。

「毎日新報」1942年8月4日付夕刊2面

農村に一夜講習会 / 京畿道で一斉に開催、4千青年練成

京畿道では農村中心人物の自覚を促進し、その活動を強化して戦時農村の再編成と食糧増産の中核部隊を編成するため、一夜講習会を道内一斉に開講することになった。この講習会は道短期農民道場の修了者を始めとし、郡農民道場修了生、農業実習学校と卒業生、指導学校の指導生たちのうち、現在部落聯盟の幹部として活動している道内4千余りの中堅青年たちを各府、郡単位に毎年1回以上ずつ召集し、指導者と寝食を共にしながら徹底した教養訓練を実施する予定である。今年は来たる10日の高陽郡を皮切りに、18日の龍仁郡を最後として、道内一斉に開設する予定である。道からは佐伯農政課長、武田道短期農民道場長、安川囑託以下各関係係員がそれぞれ出張し、「農山村生産報国の要旨」、「生産拡充と部落民の共同活動」、その外一般農業の技術と実際について郡ごとに午後1時から翌日の午前11時までを会期として、一斉に一夜講習を実施する予定である。

「毎日新報」1942年8月5日付朝刊4面中東版

国語毎新の利用増大

【江原支社発】「真の皇国臣民になるためには、まず国語から知らなければ

ならない」という標語の下、江原道では国語普及熱が高まっているが、京城地方専売局春川出張所では職員たちの家族に国語を解得させようと、国語講習会を開催することになった。すなわち、半島人職員の家族で国語を知らない人は、老若男女の別なく毎週土曜日に集合させ、午後約2時間程度国語を教えることになった。教材には本報国語毎新を利用することになったが、このような国語普及運動は一般民衆の模範になると、各界から好評を得ている。

【新幕】 黄海道瑞興郡では一般郡民に国語常用を徹底して督励している。愛国班では班単位に20歳以上50歳以下の男女はもちろん、国語未解者には全員講習を受けさせる。教材は本報の国語講座を主とし、そのうち新幕面榮町では去る7月20日に始まった。毎夜2時間ずつ、全員20歳以上40歳までの15名の女子で、熱心に受講し、普通会話は解し得るということである。講師は当地の金融組合書記李原邦寧さんで、人々は李原さんの真摯な熱意に感激している。教本として推薦。

【中和】 中和地方の国語講習熱は最高潮に達し、部落毎に講習会を開催して皇国臣民化に力を注いでいる。去る7月25日、中和郡聯盟では国語毎新を教本として、国語を知らない一般聯盟員たちに1日も早く国語解得に努めるようにさせるべく、各面聯盟に通牒を発した。家庭でも利用。

【凶們】 本社では未だ国語を解し得ない多数の半島同胞を教化啓蒙し、時局認識と国体本義の透徹、皇民化の完璧を図るために、去る7月1日から国語毎新を新設、国語日曜附録発行を断行した。凶們街公所では、街内の各聯合班を通じて国語未解の家庭に本報の国語毎新を利用して1日も早く国語を常用するよう、鮮系側指導班が一斉に努力することになった。

【襄陽】 半島臣民に国語を早く解得させ、皇民としてふさわしい精神を涵養するために、襄陽郡聯盟では国語毎新と日曜国語附録を利用して全面的に解得させるために、あらゆる方策を講究し、着々と進められているところである。

「毎日新報」1942年8月6日付朝刊4面中東版

国語常用総力戦／徴兵適齢青年に重点を置いて講習会開催

【江原支社発】江原道では国語全解運動に関して具体的計画を樹立しているところだが、ついに成案を得ることとなり、次の計画によって国語常用を奨励普及することになった。

一. 国語未解者に対する方策

1. 各種講習会の開設

(イ) 国民学校の国語講習会開催 — 従来から実施してきた国民学校国語講習会の対象を、特に昭和19年度以降徴兵適齢となる青年に重点を置き、適齢青年に正しい国語を常用させるようにする。

(ロ) 洞・里・部落聯盟附設国語講習会の開設 — 洞、里、部落ごとに開設する予定で、年令に制限はないが、前者に準じ青年層を対象として青年部と一般部に分けて講習を受けさせる。

(ハ) 会社、工場、鉱山等の事業場での特設国語講習所の開設 — 多数の労務者を使用する集団では、国語講習所を特設して教育に努めること。

(ニ) 青年隊員を対象とする補足教育の実施 — 一般的に修習させるほか、分隊毎に毎週一般訓練時に役員が補足教育を行う。

(ホ) 儒林層を対象とする講習会の開設 — 郡、郷校と儒道会主催で各郡の文廟で開催する。

(ヘ) 愛国班単位の教育 — 国語を未だ解さない愛国班員を随時集め、指導力を有する班員が教育する。

二. 国語解得者に対する方策

1. 官公署、団体職員たちはもちろん、学生、生徒、児童は場所の如何を問わず、必ず国語を使用するよう実践する。

2. 会社、工場、鉱山など多数の人が勤務するところと、青年団、婦人会、教会その他の集まりにおいては、極力国語を常用させる。

3. 国語を解する者は必ず国語を使用することはもちろん、あらゆる機

会に未解者に対して教導に努める。

4. 官公吏、会社員など指導的地位にある者で、国語の常用を励行しない者に対しては、処遇上相当な考慮をなす。

三. 一般的方策

講演会、座談会、宣伝塔の設置

宣伝ピラ配布などによって普及し、各愛国班では日常用語30語以上を毎月定例常会で提示して、1日1語主義で解得させる。また、家庭国語会話会の開催、各宗教団体、商工業者、料理店、飲食店、娯楽場でも国語常用を励行し、国語普及及び優良部落競進会の開催と、国語常用家庭の表彰などによって全面的に普及する。

各地でも普及に拍車

【黄海支社発】国民総力碧城郡聯盟では、7月31日から来たる8月末まで同郡内各地の23か所で地方有力者国語講習会を開催するというのである。ところで、今般の講習会の講習生は各面聯盟および部落聯盟の理事長、または面協議会員のうち国語を解さない者などである。その数は2,400余名に達しているということだが、講習指導には各国民学校訓導らが当たるとのことである。

【徳亭】大日本婦人会桧泉面支部では、誕生後最初の事業として国語全解運動に参加し、皇軍の母となる国語未解得婦人に1日も早く国語を全解させる目的で、面内各部落に婦人夜学部を設置し、徳亭里では国民学校の教室を借りて8月1日から10月末日までの3か月の予定で婦人国語講習会を開催した。講師は石田校長の夫人、秋江徽文中学の先生の夫人、重光降次さんの夫人、金村国民学校訓導の四氏であり、開講当日の受講申込者は91名である。

講師を大量養成／江原の各国民学校で

【江原支社発】国民総力聯盟と郡教育会では国語普及に万全を期そうと、

洞・里・部落聯盟開設国語講習会の講師養成講習会を開催することになった。期間は2週間程度で、各地の国民学校または簡易学校で開催することになった。そして、国語普及年次計画は3ヵ年とし、国民学校初等科2年程度の実力を養うことになっており、道内4,304の部落で講習会を開催する予定である。地方の実情によって昼夜の適当な時間に実施し、1日の授業時間は2時間とすることになった。

「毎日新報」1942年8月6日付4面京城版「国語毎新」

コラム「今日のつとめ」欄〔原文のまま〕

こくご おんな
国語と女

あたらしい ことばを おほえるには 女のくちから きくのが 1ばん早い
といはれるのは おなじことばでも 女のくちから出ると やさしいか
らである。さういふことから 朝鮮で 国語を早くおほえる ためには
おんな ひと はやくならひおほえることだ。また国語を 知ってゐる女
のひと は 知らない人に教へてやってもらひたい。京城のやうな町では
ちしきかいきゅう おんな たい 国語がわかる かういふ人たちは 一人でも多
く その隣の人たちに 国語を をしへてあげてほしい。道であった時
でも 電車の中でも どこでもかまはない いつでも 出あつた時に 一つ
づつ をしへてあげて下さることをお願いする。

「毎日新報」1942年8月7日付朝刊4面中東版

国語全解に拍車

【黄海支社発】国語全解運動に全力を傾けている海州府では、府内のそれぞれの町で国語講習会を実施させるため、講師の選任、及び場所その他についての準備を進めていたが、諸般の準備が終了したので、去る2日から東栄町、西栄町、上町、南幸町および北幸町、および広石町と石溪里を始めとし、その翌日の3日からは仙山里、煙霞町などで各町一斉に国語講習会を始めた。引き続き、南旭町、北旭町、南本町、北本町、中町などの

各町でも、近々国語講習会が開催されるということである。

【開城】国民総力開城府聯盟では、来たる8日から12月までの5か月間、府内40か所で国語を解し得ない大日本婦人会員と町総代、愛国班長、町会役員など約2千余名に国語を教えるために講習を開催して国語全解運動を起こすことになったということだが、男子は15歳から30歳まで、女子は18歳から40歳までであるという。

【抱川】抱川郡では、国体本義の透徹はまず国語からと、郡内の部落毎に国語講習会を開いたが、青年は言うに及ばず老人も「あいうえお」を習っており、各国民学校の訓導および部落の有志らが先生になって無報酬で熱心に教えているという。各講習所は連日連夜超満員で、抱川の至るところで字を習う声が朗々と聞こえ、国語普及に万全を期しているという。

【議政府】楊州郡蘆海面では国語全解運動が始まると、平山面長が先頭に立って積極的に活動した。その結果、管内の28の部落に設置された講習所だけでも56か所で、男子部、女子部を合わせれば講習生が1,700余名に達している。面内で大家族国語常用家庭だけでも13戸もあり、郡内で最も好い成績を上げているという。

「毎日新報」1942年8月9日付朝刊中東版

1日に1語ずつ理解／各家庭に国語普及／江原で国民学校の児童を通じて【江原道支社発】「真の皇民化は国語全解から」という標語の下、江原道では国語全解運動を起こすことになり、普及に対する具体的方針を決定したということは既に報じたところだが、国語普及の一つの方策として国民学校の児童を総動員して各家庭に徹底普及することになった。すなわち、国民学校の児童たちは家庭国語化の一教師として学校においてと同様、各家庭においても国語を常用するのはもちろんのこと、国語を知らない家族に対しては1日に1語ずつ教え、1月に30語、1年に365語を解得させ、国語全解運動に協力させることになった。

「毎日新報」1942年8月9日付朝刊中東版

国語毎新と日曜附録の利用

【黄海支社発】皇国臣民となった我々は国語を解得しなければならない！という自覚のもと、黄海道内の各地でも国語講習会が開設されていない所がない現状である。そんな中で、本社で発行している国語毎新を国語講習の教材として使用する所が多いが、海州にある芸妓券番では芸妓60余名と童妓たちにまで国語を教えている。この教本としては国語毎新を全面的に使用しており、また各家庭で主婦やその他婦女子たちは国語を自習するにあたって、最も学びやすく便利な国語毎新を皆利用しており、国語毎新は一般国語初学者にはまたとない適当な教材として広く適用されている。

【端川】郡の学務係では本道の国語普及計画を遂行する上で、本報に掲載されている「国語毎新」と「国語附録」を多く利用することが最も適切な方策であるとして、今回、郡内の各邑、面に対して購買普及に関する指示を下し、郡総力聯盟では国語常用運動を展開する上で「国語毎新」と「国語附録」は機宜にかなった出現であるから、一般愛国班員は多数購買するようにせよと激励する通牒を、管下の各邑・面聯盟に対して発した。

【新郷】華北蒙疆在留の半島同胞8万名は2年後に徴兵制実施を控え、皇国臣民化に拍車を掛けるとともに、国語全解運動が各地に展開されるに従い、講習会を開催して国語解得にひたすら努力している。北支でも国語講習に良い教材がなく、これを求め得ることに大きな困難を感じていた。しかし、このたび毎新国語欄と日曜附録が刊行され、各地方の国語講習会では大いに歓迎している。北支□慶線焦作では協励会理事江川炳泰、其本龍泰の両氏の努力により、去る7月15日から竹岡国民学校訓導が講習指導者となって、豊川鉄工所で毎夜8時から2時間ずつ講習中である。この講習会でも適当な教材がなく、求め得ようと努力していたところ、毎新国語欄と日曜附録が出現するや、国語講習生に復習、自習教材として提供して国語解得に万全を期すことになった。そして現在は、男子だけの講習生が20余名だが、目下保母講習会に帰鮮中の幼稚園の金澤保母が帰還次第、直ぐ

に女子班も開始されるだろうということである。

【文区】 黄海道平山郡文区では一般面民に国語常用を徹底して督励しており、各愛国班では班単位に15歳以上50歳以下の男女はもちろん、国語未解者には全員講習を受けさせている。教材は本報の国語毎新と日曜附録を主にしており、このうち文区市内22の愛国班では、去る7月15日に始まって以来20日余り経ったが、受講者たちは熱心に受講し、普通会話は解得している。受講者たちは堅く決心して、立派な皇国臣民になろうという決意で徹底して受講している。

【漁大津】 皇国臣民として半島民衆に国語を解得させようとする全解運動が高まっている今日、漁郎面河南洞婦女講習会では、去る7月15日から15歳以上40歳未満の婦女子40余名を集めて国語講習会を開いた。今般、本報国語毎新と国語附録を教材にして授業を行ったところ、その成果は多大で、今後全ての面において開催される国語全解運動に拍車を掛けている。

【青山】 半島の山河全体で国語全解運動が燃え上がっている今日、忠北青山でも河本面長と松村校長が国語全解運動の第1線に立って面民を指導、督励している。そして、講習会を8月1日から開催して面民に国語講習を受けさせる一方、本社で発行している国語毎新と国語附録を各家庭に配布して読ませることにした。

【寒水】 堤川郡寒水面では、去る3日午前9時から国民総力寒水面聯盟の8月常会を面会議室において清竹理事長代理、狗城漢圭氏の司会の下に開会し、国民儀礼に続いて現時局下における諸般の重要問題を討議したが、緊急を要する問題として

1. 国語普及徹底に関して、毎日新報の国語毎新欄あるいは日曜附録、国語教室を利用し、各部落において国語未解者を1か所、または数か所に集めて毎夜30分乃至1時間ずつ講習会を開催し、未解者を1日も早く無くすこと。
2. 婦人愛国班員動員大会の準備として、部落ごとに毎夜婦人班を集め、国民儀礼と時局問答を施して婦人訓練を徹底させることなどを討

議し、正午になって黙礼の後、散会した。

「毎日新報」1942年8月10日付朝刊4面地方版

紅裙の国語講習／沙里院妓生の向学心

【沙里院】国語全解運動を提唱している今日、沙里院妓生組合でも以前から国語を徹底して普及しようとしてきたが、8日の大詔奉戴日を期して、当組合の2階で国語講習会を開催することになった。まず波多江邑長、金谷書記を始めとして金子善子講師、二宮組合長以下妓生35名が出席し、一同国民儀礼と国家奉唱。二宮組合長の挨拶、波多江邑長の訓示として、以後国語講習には全力を尽くし、妓生の態度として遺憾なく発揮することを求めている。(写真は波多江邑長の訓示を聞く妓生たち)

「毎日新報」1942年8月12日付朝刊4面中東版

国語普及運動(各地)

【安城】当地の長老会西里教会で国語講習を始め、大きな成果を上げていることは既に報じたところである。その後、邑内の天主教会東里聖潔教会でも信徒たちを対象として、去る7月から国語講習を行うことになったが、信徒以外にも一般の家庭主婦等が押し寄せるように志願し、両方共に百余名に達して大盛況である。

【翠野】国語全解運動はまさに機が熟しているが、翠野の各区部落では国語講習会を開催するので、多数聴講されたしとのこと。

【江陵】江陵の儒林層でも本運動の真意に感激するあまり、国語講習会を望んでいたが、江陵儒道会では郷校を中心に会員を募集したところ、既に定員を超過しているのみならず、70歳以上に達する老人層が多く、本郡の国語普及常用運動はその他の一般青少年男女層の国語講習会と共に、非常に徹底して進められている。

- 一、講習期間 3か月間として年4回開催し、第1回目は8月から10月までとする

二. 受け入れ人員 1回50名前後

三. 受講者の資格 儒林の子弟、儒道会の役職員のうち国語を解さない者

四. 場所 江陵郷校

「毎日新報」1942年8月13日付朝刊4面中東版

国語毎新と国語附録の利用

【忠南支社発】本報の国語毎新と国語附録の発行に対して、実に多くの讃辞が寄せられている。忠南道聯盟では各府・郡聯盟に対して、「毎日新報は国語普及上適切かつ有効な新聞であるから、この利用に遺憾なきを期すること」という通牒を発するとともに、将来、国語講習用の教材として使用することにした。すでに保寧郡聯盟では、各面長会議で安山郡守から教材用とすることを指示するとともに、本報忠南支社に次のような感謝の意を表した。

「国語受講者の間にはおのずから程度の差があり、教材の編成において多少の不便な感があったが、貴紙の国語毎新と国語附録は初学者にも適切で、多少解し得る者にも無二の教本である点が特色であることを認め、本郡ではすべて国語毎新を国語教材として利用することになった。依って貴社の犠牲的奉仕に満腔の敬意を表する。」

【天津】天津の国語全解講習運動において、本報「国語毎新」と国語附録は初学者に最も適切な教材となるだけでなく、また時局関係も正確に認識させ得るという一石二鳥の役に立つので、各区の講習所が全てこれを歓迎するようになった。このことについて渡辺朝鮮課課長は次のように語る。

現在教えている教科書を全て終らせた後は、どんな教材を採用するかについて総督府にも報告して問い合わせているが、未だ何の成案も得ていない。国語毎新は初学者に最も適切な教材として、国語全解運動に役立つだろうと思う。朝鮮課としても、去る8日各区班長集会を利用して、これを教材として採用するよう勧告した。

【盈徳】盈徳郡聯盟では全鮮の国語普及運動に拍車をかけ、講習会、座談会、国語生活指導委員会などを開催してきたところだが、本社では国語普及運動が積極的に展開されている今日、更に一步進めて、初学者でも教材として利用できるよう、去る7月1日から国語毎新と国語附録を発行してきた。これは国語普及奨励上、機宜を得た適切な処置であり、また国語普及運動の良き教材であるとして、郡聯盟では各部落と各儒林層においても多数利用するよう通牒を発した。一般の未解者はこの機会を大いに利用し、一石二鳥の実を挙げることを望む。

【居昌】皇民化運動にひたすら邁進している本報では、国語全解運動の深刺とした展開とともに国語毎新欄の新設と日曜日の国語附録の発行などをもって全面的に拍車を掛け、その寄与するところは最も大きい。国民総力居昌郡聯盟では去る3日、管下の各邑・面聯盟に対し、各面聯盟ではさらに各部落聯盟に対して通牒を発し、国語毎新欄の利用徹底を期すことを通じて、国語習得と合わせて時局認識も可能な一石二鳥の効果をを得ることになった。

「木曜版国語教室」第7号1942年8月13日付1面〔原文のまま〕

こくご かいだ べんきょう
国語ふろく二回出します／勉強してください

これまで 毎週の日曜日にみなさんへ おくつてみた ふろくの
“国語教室”は これから 木曜と日曜の二回 出すことにしました。そ
れはこの国語ふろくと 本紙の“国語毎新”とができてから 全鮮の
読者から いろいろな 註文があり なかでも ふろくを毎日 出すやう
にといふ 熱心な きぼうもありますが 用紙の かんけいなどから
今 きうに さういふことも できないので とうぶんの間 一週に
一回づつ 国語ふろくを 皆さんにお届け することにしました。この
ふろくは大たい 三つの 程度にして かいてあります それは 初め
て 国語を ならふひと 国民學校で 勉強してある お子さんたちと
国民學校卒業程度の 知しきの ある人たちと この三つにしてみま

すから どうしても むづかしいとか やさしすぎる とか いふやうなことが 自然しぜんにおこつて きます。けれども 讀者どくしゃの 國語こくごの力が だんだん 進すすんで きて もうカタカナやひらがなが いらなくなり だれが讀よんでも すみからすみまで おもしろい 國語こくごのふろくが 一日いちにちも 早くはやうまれるやうに 練習れんしゅう（吾早）して くださることを お願ねがひします。

こくご につほんご 國語と日本語

こくご 國語といふのは じぶんの國くにのことばで われわれ一億おくのものが、毎日まいにち あさばん つかふことばが 國語こくごである。國語こくごとはいひかへれば われわれの つかふことばといふことである。日本語にっぽんごとは 日本にっぽんいがいの たとへば 支那しな、マレー、ビルマ、フィリッピンなどの 共榮圈きやうえいけんないの人たちや 日本にっぽんのほかの國民こくたみが 外國語がいこくごを まなぶときに “日本語にっぽんご” といふのであって 半島はんとうは皇國こうこくであるから 國語こくごといつても 日本語にっぽんご（日本語）などと いつてはいけないい。皇國こうこく臣民しんみんたるものが その日常使にちじょうつかふ ことばを 外國語がいこくごのやうに 日本語にっぽんごなどといつては いけないい じぶんたちがつかふ 國語こくごは おくにのこことばとおもはなければ ならないい。これも 國語こくごをおぼえる一つの ちかみちである。

「木曜版国語教室」第7号1942年8月13日付2面〔原文のまま〕

ナンノガッコー？

「イヌ、ネコ、イエ」オカーサンモ ネーサンモ イモートモ ネッシンニ コクゴオ ナラッテ イマス。コクゴオ シラナイ ノワ ハヂデス 「개는」[犬は] ト イエバ イツデモ 「イヌ」トコタエラレル ヨーニ ナリマシタ

「毎日新報」1942年8月20日付朝刊4面中東版

国語普及講習会／江原で3ヶ月間開催

【江原道支社発】道では一般道民の模範となるべき道庁職員の家族に対して国語を普及しようと、道聯盟と道協和会の共催で来たる9月1日から11月末日までの3か月間、春川邑監理教会礼拝堂で国語講習会を開催することになった。すなわち、道庁職員の家族たちの国語の解得状況を見ると、家族数1,549名に対して解得者数は684名で4割に過ぎない状態だが、更に家族の中心となる妻の場合、未解者が百名という多数に達し、職員数319名の3分の1に該当する状態である。それゆえ、まずこれら職員の妻に日常生活で必須の国語（単語）を習得させ、会話に不自由がないようにし、漸次他の未解家族に普及する方針で、100名を2班に分けて毎日午前10時から正午までの2時間ずつ授業を行う予定である。そして国語を通じて婦徳の涵養、子女育成、生活の刷新、礼儀作法の伝習のようなことも合わせて習得させることになったが、講師は道聯盟総力課牧山婦人嘱託と農政課金本地方指導主事のお二人が担当することになった。

「毎日新報」1942年8月20日付朝刊4面中東版

国語普及に総力／国語毎新を教材に8か月で全解

【慶北支社発】達成郡多斯面では、現在、半島全域にわたって力強く展開されている国語普及運動に足並みを揃え、全ての面民に急速に普及し、真の皇国臣民を練成することにして、最も有効かつ適切な方法を講究してきたが、遂に去る8日の大詔奉戴日を期して、面内18か所の国語講習所を一斉に開講させた。ところで、この講習所は1か所に平均60名ずつを受け入れ、講習期間は1か月間とし、1か月に1,080名ずつ普及し、8か月で面内に国語未解者は1人もいないように徹底して普及させようという斬新な計画である。教科書は主に本社で発行している「国語毎新」と「国語教室」を利用し、講師は部落青年隊員の中から適任者を選んで実施しているところだが、面ではこの事業において他の面よりも断然優秀な実績を収め

ることを目標として、松原面長以下職員を総動員して常時督励に当たっている。

愛国班に通牒

【公州】朝鮮での徴兵制実施の発表を機に、俄然台頭してきた国語普及運動は半島の山河を震撼させているが、本社では国語毎新の紙面拡張と、週2回の国語附録の発行など、実に犠牲的な努力でもってこの運動に更に拍車を掛けている。朝鮮総力聯盟では国語毎新の内容を慎重に検討した後、国語初学者に最も適切な教材であることを認めて各道聯盟に通牒を發したが、今般、公州郡聯盟でも管下の各邑・面聯盟に対し、「毎日新報は国語普及上、適切かつ有効な新聞であるので、この利用に遺憾なきを期すること」という通牒を發したが、部落聯盟はもちろんのこと、各愛国班において大いに利用するよう勧告しているということである。

【求礼】本報の附録である国語毎新に対して、求礼郡内の読者たちは国語解得にとって良き先生に出会ったかのように徹底して利用しており、未だ学校に就学していない児童たちに対して、国語講習教材として多いに利用されている。

義務制で講習

【龍井】半島同胞として皇国臣民となるには、日常生活から各方面にわたって特別な覚悟と訓練がなければならないことは勿論だが、その中でも特に差し迫った問題は、一般の人々に国語を解得させることである。国語毎新は国語普及に拍車を掛けてきたが、これに対する反応として朝鮮各地を始めとして満州の奥地に至るまで、国語普及運動が燎原の火の如く起っている。龍井街でも去る15日から大聖□□、安息教会、東山教会堂、土□堡教会堂、□潔教会堂、天主教会堂（女子部）の6か所に国語講習所を設置し、毎日午後7時から同9時まで国語毎新を教材にして開講しているが、聴講生は各隣組聯合班を通じて街内の居住者のうち17歳以上の男子の

うち、国語未解得者（老人は除外）全員を集めて入所させた「義務聴講生」と、その他志願によって入所した「自由聴講生」の2種に分かれている。聴講料は月額1円ずつであり、講習期間は6か月で、満期の後は各々の成績によって修了証を授与するという。

【平昌】新任の松平郡守は着任するや否や、邑内をはじめ各面、各部落に国語普及関係で夜学会を実施するとともに、総力聯盟を通じて各愛国班の班員たちに、現在毎日新報の国語毎新欄を利用させ、1万部を講読して国語普及に万全を期そうと準備中である。

「日曜版国語教室」第9号1942年8月20日付1面〔原文のまま〕

「カナヅカイ」オ ^{ヒト}一ツニ キメヨ

^{コクゴ}国語ノ “カナヅカイ” ワ ナカナカ ムズカシイ ^{ナイチ}内地ノ人デモ ^{ヒト}カンゼンニ コレオ ツカイ コナス コト ワ ヨーイデ ^{ハントー}ナイ。半島ノ ^{ヒト}人ニ トツテ サラ ニ ワズラワシイ コトワ ^{カナ}假名ニモ “ひらかな” ト “カタカナ” ノ ニツ アルコトト オマケニ

ヒョーオンカナヅカイ ト ^{レキシ}歴史カナヅカイ ト ニツアル。ハジメテ ^{コクゴ}オ ナラウ人ニ トツテ コレホド ^{レキシ}メンドーナ モノワ ナイ。コノ “^{コクゴキョーシツ}国語教室” ワ マエニモ タビタビ イッタ ヨーニ

一. ハジメテ^{コクゴ}国語オ ナラウ ヒトノタメ

二. ^{コクミンガッコウ}国民學校ノ コドモノアイテト ナルタメ

三. ^{コクミンガッコウ}国民學校 ソツギョーテイドノ モノ ニモ ^{コクゴ}サンコー ト ナル
ヨーニ ダイタイ 三トーリ ニ ワケテ カイテアル ガ カクチ
ホーノ コーシューカイナド カラ “カナヅカイ” オ トーイツ
シテホシー トノ キボーガ タクサン アル ソレニツイテ オコ
タエスル。ハジメテ ^{コクゴ}国語オ ナラウ人ノタメニ ソートクフ ワ
“カタカナ” ノ ヒョーオン テホンオ シメシテ イマス タト
エバ “イモートオ ツレテ ノハラエ ハナオ ツミニ イキマシ
タ” トナツテイル コレガ ヒョーオンノ カナヅカイデアル コレ

オ ^{レキシ}歴史カナズカイ ニナオスト “いもうとを つれて のはらへ
はなを つみに ゆきました” デアル 「ヲ」ワ「オ」ニ「ハ」ワ
「ワ」ト ユーヨーニ ナッテイル。ダカラ コノ ^{キョーシツ}教室デ 三ト
リノ カナズカイ オ ーツ ニ トーイツスル コトワ イマシバ
ラク シナイト ムズカシーカラ ハジメテ ノ 人ワ ココニ カ
イテイル ヨーナ ヒョーオン デ ツマリ ^{ミミ}耳カラ キイテ オボ
エル ヨーニ シテ イタダキタイ。

「毎日新報」1942年8月22日付夕刊2面

先決条件が国語常用／中等、国民学校入学考査に新たな基準

学生、生徒たちを国語普及運動の推進隊として、京畿道学務課では学校当局と協力して、早くから国語常用の徹底、1日1語普及の強化などを実施して目覚ましい成果を上げている。再び学園の国語普及運動を一般家庭と緊密な協力の下に一層活発に展開させるためには、まず学校に入学する前から常に国語を常用する熱意と習慣を育てる必要性を痛感し、これから新たに入学する生徒児童たちは、家庭で国語を常用している態度とその熱意を重要参考資料として、入学を銓衡する方針を立てた。これは実に国語普及運動のためのみならず、半島教育史上においても特記すべき画期的な対策であり、来春の新学期からは断然この新たな方針に従って一般男女中等学校と国民学校の入学生を考査することになった。その具体的内容は次の通りである。

▼一般男女中等学校

- (イ) 口頭試問でことばの思想と性行を考査する時は、国語生活を実践しているか、または上手に会話ができるかを考査し、皇国臣民たる思念に透徹しているか否かを判断した後に、入学の資料とする。
- (ロ) 選抜試験においても、常に試験者の言動、態度から国語常用の状態と国語発表力の如何を十分に観察して、入学の資料とする。
- (ハ) 国民学校長の家庭調査書(内申書)には、家庭環境欄または備考

欄に児童の家庭における国語常用の実際の状態と国語普及への熱意の有無を記入させ、これを参考資料とする。

▼国民学校入学生

国民学校入学においても直接受験児童を通して、またはその他の調査資料によって、家庭における国語全解の状態と国語常用への「熱意」を重要参考資料とする。

国語普及に拍車／藤井道学務課長談

このことについて、藤井道学務課長は次のように語る。

国語常用は半島民衆が完全な皇国臣民として練成される絶対条件である。故に皇国臣民の練成に最高目標を置く学校教育にとって、国語常用の実態を入学銓衡の重要参考資料とするのは当然のことである。従って来春の新学期からは、道内の各男女中等学校と国民学校入学考査に国語常用の状態とその「熱意」に高い比重を置いて参考にするつもりであるから、一般家庭でも当局のこの意図を十二分に理解し、積極的に協力して、国語普及運動を一層活発に推進してくれることを望む。

「毎日新報」1942年8月24日付朝刊3面

青年に国語と教練／全満28か所で開講

【新京支社発】来たる19年度から徴兵制を実施するという快報があった後、在満朝鮮人の感激は非常に大きく、その準備に万全を期そうとしていて、各方面の熱意は次第に高まっている。この度、協和会本府では先ず最初に国語を解し得ない青少年を対象に簡易な国語を習得させるとともに、教練も受けさせ、将来、帝国軍人となる上で遺憾なきことを期することとなった。

この国語講習と軍事教練は教務部、民政部の管下に属する鮮系学校で行なう予定だが、その期間は半年間とし、今年度は全満の28か所に開講する予定である。ここに受け入れる者は、まず適齢期の朝鮮青年を選抜して1

か所に60名ずつ、合計1,680名とし、来たる9月の初めに開講し、翌18年3月に修了させる予定であるという。そして、この期間中に教練も兼ねて実施し、講習会場には開催校の校長が、そして学科は教員たちが担当するという。

「毎日新報」1942年8月25日付朝刊4面中東版

儒林層にも国語講習／黄海道で3か月間の短期で

【黄海支社発】本府の施政方針にしたがって国語の普及・常用を図ることにより、内鮮一体の真意に徹せさせるため、黄海道儒道聯合会ではこの事業の一翼として文廟を中心として、儒林層を始めとする一般男女の国語未解得者に対し、去る7月15日から3か月間の短期国語講習会を開催している。ところで、時勢の進歩に目覚めた同会会員はもちろんのこと、会員の婦人及び一般の婦人層においても国語習得熱が澎湃として起こり、希望者が殺到して、当初計画していた男女2組、1組に各50名の計100名の予定を軽く超え、男女3組計180余名を突破する大盛況を見せている。ところで、この男子組の中には府内の儒林の代表的碩学である佳山之舜（75）翁、安田守吾（68）翁などがいて、講習員の中でも特に異彩を放っている。講習期間は1年を4期に分けて3か月を1期としており、毎期の定員は1期あたり50名で、3組150名だそうである。場所は府内上町明倫堂内で、受講期間は男子組は毎日午前8時から同9時まで、女子組は第1班が毎日午後1時から2時まで、同第2班は午後2時半から3時半までで、講師は三井道視学、江原道囑託及び坡平道囑託などであるという。（写真は黄海道儒道聯合会国語講習会の光景）

「日曜版国語教室」第10号1942年8月25日付1面〔原文のまま〕

こくご さいそそうとく ばなし
国語常用／小磯總督のお話

こいそ きょくちようかいぎ こくご
小磯そうとくは さきごろの 局長會議で 國語をふだんに みんな
が つかふやうに うんとほねを おらなくては ならない 前の 南そ

うとくも國語をおぼえなくてはならない といふことを いはれたが
自分もその とほりであるばかりでなく もっともっと 國語が うまく
はなせる やうにしたい といつて をられた。いまはもう 國語をおぼ
える のが めんどうだとか むづかしい とか りくつをいつて ゐる
時ではなく なにがなんでも 國語をおぼえ それで 皇國臣民の みち
を じっせんする そして一日も早く 大東亜の めいしゅに ならなけ
れば ならぬ。

かな遣ひ／國語を勉強される方に

國語の“かなづかひ”といふことは なかなか むづかしい といふこ
とは この前に おはなしをした。が いひたりなかった ところを 少
し おはなし しておきます。總督府では “イモートワ キキョーノ
ツボミオ ソット ツマンデ カワイラシーネ。トイー マシタ”と表音
かなづかひ のてほんを しめして ゐます これを 歴史かなづかひ
に なほす と “いもうとは ききやうの つほみを そつとつまんで
かはいら しいね。といひ ました。”となる のであります。そこで
この 表音 かなづかひはカタカナで 國語の べんきやうを される
人のために だけ つかひ ひらかなの時は 歴史かなづかひによ
るやうに こゝでは かきます。

「毎日新報」1942年8月26日付朝刊4面中東版

國語講師講習／部落中堅人物に

【徳亭】国民総力桧泉面聯盟では國語全解運動に参加して、面内の各部落
11か所に國語講習会を設置した。この講師となる部落中堅19名の指導者講
習会を、去る20日午前10時徳亭公立国民学校講堂にて開催し、同校香山先
生の教授方針や方法などの講習があつた後、午後4時閉会した。

「毎日新報」1942年8月26日朝刊4面京城版

進級と就職にも国語常用を参考／京畿道の拳校一致常用徹底方針

京畿道では今春、道内の男女中初等学校の職員、生徒、児童に拳校一致の体制を確立させ、国語常用に力強く邁進して銃後半島民衆の皇民化運動に一大拍車を掛けることになった。それぞれの学校でも、当局の方針に従って多彩な国語常用徹底方策を実施しているが、その主要なものは次の通り。

- 一. 各科の採点に国語常用を考慮する。
- 一. 進級する際も、有力な参考資料とする。
- 一. 生徒を通じて、1日1語ずつ普及させる。
- 一. 国語使用誓約書を保護者から提出させる。
- 一. 1月に1度、もしくは学期中に国語練習会を開催する。
- 一. 国語賞牌を授与する。
- 一. 就職の推薦は国語能力の優れた者を先にする。

「毎日新報」1942年8月27日付夕刊2面

国語普及熱に感激／倉茂軍報道部長の慶尚南北道視察談

倉茂朝鮮軍報道部長は慶尚南北道地方の在郷軍人訓練状況を視察して24日帰任したが、まず「訓練はどの地でも実に熱心であった。教える人も教えられる人も皆、在郷軍人の名誉に奮起して、精魂を尽くして訓練を続けていた。その雄雄しい姿は実に心強く、喜びを感じた」と、郷軍の訓練を称賛した後、各地の国語教育に対する感想を次のように述べた。

徴兵制実施の前提として、各地では国語普及に努めているのを共に視察した。慶州では今、儒林層に対して熱心に国語を教えているが、聞くところによれば60歳の老人までもが子供たちを先生にして、家庭で国語を練習しているという。また婦人層に対しても機会ある毎に講習会などを開催して、国語を理解させようと努力しているところだということや、行く先々で半島人が喜んで国語を習おうという熱心な態度で練習を重ね

ているということを知り、実に愉快であった。このように学ぶ人々が熱心なので、今後この人々が立派に国語を話すことができるよう熟練させることは、ひとえに彼等を指導する関係者の熱意如何にかかっていると云える。したがって、指導者たちは学ぶ人々のこの熱心な気持ちをよく理解して、より一層国語普及に積極的な熱誠を捧げてくれることを望む。

「毎日新報」1942年8月29日付4面京城版「国語毎新」

コラム「今日のつとめ」欄 [原文のまま]

へい こくご
兵と国語

くらしげんほうどうぶちょう 倉茂軍報道部長が なんせんちほう 南鮮地方をまはられ こくごふきゅう 国語普及といふことが どこでも ねっしんに おこなはれてゐるのは 何よりも よろこばしいと いはれた。あるところでは 六十のおぢいさんたちが こどもを先生として ほんとうに 六十の てならひをし また おんなひと 女の人たちも きかいのあるごとに ねっしんに こくご 国語のれんしゅうを してをるさうである。昭和十九年からの ちやうへい 徴兵のときには はんとう 半島の そうてい 壮丁に ひとり 一人でも こくご 国語のわからない もののないやうに いま 今から けいこをしなければ ならない。それには かてい 家庭の ちち 父も はは 母も みな こくご 国語がわかるやうに べんけう 勉強 (吾早) してほしい。

「毎日新報」1942年8月31日付4面地方版「国語毎新」[原文のまま]

こくご 国語の家を表彰 / いへ 京城府内 ひやくじゅう 百九十戸が じょうよう 常用

けいじょうふ 京城府 ちうりよくわ 総力課では けいじょうふない 京城府内の こくご 国語を じょうよう 常用する いへ 家を しらべ ましたが か 一家 そろって こくご 国語ばかりを つかってゐる か 家ていが ひやくじゅう 百九十戸 あり ました。 けいじょうふない 京城府内の はんとうじん 半島人は やく やく じゅうしちばん 十七萬戸で そのうち わり 二割が こくご 国語を かいとく 解得して ゐる のですが かうした こくご 国語常用の かてい 家庭が もはん 模範になって これから こくご 国語の家が いへ どんどん ふえて ゆく 行くこと でせう。 けいじょうふ 京城府では ちかいうちに こくご 国語の家 ひやくじゅう 百九十戸を ひょうじよ ひょうじよ

う することに なってゐます。

コラム「今日のつとめ」欄 [原文のまま]

^{がいち}
外地

^{たなかせいむそうかん} 田中政務總監は ^{とうきやう} 東京で ^{がいち} “外地” といふかんがへを なほさなければならぬといはれた ^{がいち} “外地” といふことは ^{ないち} “内地” にたいする ^{がいち} “外地” といふことで けっして外國といふ いみではないが ^{ほんごく} 本國から はなれてゐるから ^{がいち} 外地といふならば ^{しゅう} 九州も ^{こく} 四国も ^{がいち} 外地と いはなければならぬ。このことばは ^{ないち} 内地からばかりでなく ^{はんとう} 半島からもさういふいみで ^{かんが} かんがへられてゐるやうであるが ^{はんとう} 半島でも ^{ほんごく} 本國でも ^{こうこく} 皇國にかはりはない ^{だいにっぽんていこく} おなじ大日本帝國であるから ^{がいち} とくに外地といつて ^{はんとう} 半島をままこあつかひにするやうなきもちを ^{そうほう} 双方からなくして ^{おく} 一億 ^{しん} 一心 ^{こくいちぐわん} 一國一丸と ^{こうこくしんみん} なつて皇國臣民のみちを ^{じつせん} じつせんしなければならぬ。

「毎日新報」1942年9月2日4面京城版「国語毎新」

「カタカナ教室」欄 [原文のまま]

コクゴゼンカイウンドーニ五十マンエンノヒヨーオ カケル

サライネンノチョーヘイオマエニ シテ マダ コクゴ ノ ワカラ
ナイ ワカイ ヒト ガ スクナク ナイノデ ソートクフ デワ コク
ゴ ゼンカイ (ダレデモ ^{ひとり} 一人 ノコラズ ミンナ ワカル コト) ニ
アルカギリ力 ^{チカラ} オツクシ コクミンガッコー センセイ ガタ オ ウゴ
カシテ オシエル コト ニ ナリ マシタ ガ ソートクフ デワ ソ
レニ ツカウコトシ ノ ヒヨー ト シテ 五十萬 ^{マン} エン オ ダス コ
ト ニ ナリ マシタ。

「毎日新報」1942年9月2日付夕刊2面

国語全解の挺身隊／300万京畿道民突破態勢整備

歴史に輝く大東亜共栄圏の建設はまず国語普及からという堅い信念の下

で、いま半島2,400万の民衆が国語の解得と常用運動に燃えるような愛国の熱誠を爆発させている今日、京畿道でもこれに呼応して、職業と年令を越えて国語普及挺身隊となって300万の突撃を展開させようと、道当局では最近、膨大な今年度の国語普及計画案を決定し、国民総力京畿道聯盟と道総力、地方、社会、学務各課が緊密な連絡の下に9月から活発な実践運動を先導的に展開することを決定した。また総督府情報課でも、これと共に国語普及宣伝ポスター3万枚を印刷し、全鮮の主要な各駅、公会堂、工場、会社、百貨店、映画館などに9月1日一斉に配布して、国語普及運動を大々的に宣伝することになった。道総力課の調査によれば、昭和16年末現在の京畿道内の半島人総人口274万284人のうち国語解得者は67万9,249人で、全体の2割5分弱であり、人口1万人に対して2,478人に相当する。これは昭和12年の人口1万人に対する1,784人、13年末の1,953人、14年末の2,077人、15年末の2,318人と比較して、年を追うごとに国語解得者は増加してきている。しかし16年末現在、50歳以下10歳以上の者のうち国語を解し得ない者の総数は、なお130万8,623人の多数に上るので、彼らに1人残らず国語を解得させようと、今年9月から始める1ヵ年計画で、次のような具体的計画を立てた。すなわち、道社会課が中心となって国庫の補助を受け、道内の各国民学校、中等学校に臨時青年訓練国語講習会を開催して15,269人を、また道内20の郡ごとにそれぞれ1か所の郷校にて儒道会国語講習会を開催して儒林たち900名に国語を解得させ、道学務課が中心となって道内111か所の国民学校に国語講習所を設置して2万5,090人を、また大日本婦人会京畿道支部が中心となって道内の各面に40名ずつ、総数1万9,240人の婦人たちを対象にして一斉に国語講習を実施し、以上総計6万499人に今年度中に国語を解得させる予定である。また残りの124万8124人については、道内5,991の町・部落聯盟の主催のもと、3年計画で1部落で約50名ずつ受け入れて一斉に国語全解運動を起こし、さらに10歳以下の児童のうち未就学の児童たちを対象にして、各府・郡・面・邑・部落毎に簡易保育所、もしくは学術講習所で受け入れて徹底した国語全解運動を

起こすことになったので、3年以内には300万道民全てが国語生活を実践することができる、完全な皇国臣民となるはずである。（写真は情報課の国語宣伝ポスター）

「毎日新報」1942年9月3日付夕刊2面

国語常用模範家庭／京畿道で900戸を表彰することに

国語で書き、国語で話して、皇国臣民たる決意を昂揚させ、大東亜建設の指導者としての責任を完遂しようと、半島三千里の津々浦々では国語常用運動が力強く展開されている今日、国民総力京畿道聯盟では道内一斉に栄誉の「国語常用模範家庭」を表彰することに決定し、今春から各府・郡・邑・面・部落聯盟と各種聯盟関係者を総動員して、慎重にその調査に着手中であつたが、このほど全体の統計が集計された。それによれば、去る7月末現在で総計902戸、総人員4,670名、そのうち男子は2,331名、女子は2,291名と判明した。これは道内278万余名の半島人に対して僅か0.16パーセントに過ぎない。その内訳を各地域別で見ると、最も多い所が仁川の295戸、京城の190戸、楊州の113戸の順で、最も少ない所は江華の1戸、長湍の3戸、利川の4戸の順となっている。さらに職業別に見ると、1番は官公吏、その次は商業、会社員の順となっているが、予想したより国語を常用している家庭が少ないのは、主に老人や婦人たちの国語解得者が少ないことが、最も大きな原因であると当局では説明している。道聯盟では、今回調査した模範家庭は近々具体的な方法で一斉に表彰するとともに、今後は更に国語普及徹底して行い、一軒残らず全て国語常用の模範家庭となって、完全な皇国臣民にならせる予定である。調査した国語常用家庭の各府・郡別の統計は次の通りである。

国語常用家庭（7月末現在）

府郡	京城府	仁川府	開城府	高陽郡	広州郡	楊洲郡	漣川郡	抱川郡	加平郡	楊平郡	驪州郡	利川郡
戸数	190	215	6	11	15	113	22	21	18	23	21	4
男	613	665	13	20	34	287	47	48	35	58	30	12
女	557	569	13	32	34	290	46	46	30	51	31	10
計	1,170	1,234	26	52	68	577	93	94	65	109	61	22
府郡	龍仁郡	安城郡	平沢郡	水原郡	始興郡	富川郡	金浦郡	江華郡	坡州郡	長湍郡	開豊郡	計
戸数	38	28	22	32	37	14	13	1	9	3	44	900
男	92	99	63	81	125	32	30	5	26	2	102	2,519
女	67	55	67	78	135	29	33	2	18	5	93	2,291
計	159	154	130	159	260	61	63	7	44	7	195	4,810

※記事の原文には総計が合わない府または郡があるが、これは訳者訂正を加えた。

「毎日新報」1942年9月5日付朝刊3面

在満州、支那の半島青年／徴兵制に備えて訓練／国語講習と教練などで練成

再来年度から実施される徴兵制度に対し、総督府では青少年の訓練に特に力を入れているが、司政局では現地派遣員と連絡を取り合って、満州国と支那にいる半島青少年たちに国語を教え、教練、訓練を実施すべく準備中であったが、いよいよ9月中旬から本格的な訓練を開始することになった。国防の重責を担う榮譽の徴兵制実施を控え、朝鮮と外地は勿論のこと、半島の全民衆が愛国の至誠を發揮し、自ら進んで国語を習うなど、感激すべき美談、佳話が続出している今日、この徴兵制度の光栄に浴することになる外地在留の青少年に対する訓練が本格的に開始されるのは喜ばしいことである。実際の訓練方法は国語講習と教練の施行であるが、満州国では満鉄沿線の保留学校、およびその他移讓学校など、在満朝鮮人を教育

する学校の中で比較的朝鮮人が多く集住している地方の学校40か所を選んで、ここに附属講習所を設置した後、徴兵年令に該当する青少年たちを集めて国語を教え、また初歩程度の教練も受けさせることになっているのである。そして、主に北支方面では、平素より皇民化を目標に朝鮮人たちを指導している協励会を通じて、それぞれ当地の朝鮮人青少年たちを徹底して指導、訓練することになる。これに要する経費は、総督府において予備金から支出することになったが、既に準備が終った所では、9月中旬から実際に訓練を始めることになった。そして一般的に各地で講演会と座談会を開いて、徴兵制度の趣旨を広く宣伝し、外地にいる朝鮮人たちが、青少年たちはもちろんのこと、一般民衆が愛国の至誠から自ら進んでこれに協力するよう指導することになった。そして開拓民部落に対しても、その地方の実情に沿って指導することになるだろう。

「毎日新報」1942年9月9日付朝刊4面京城版

輝かしい国語講習修了式／解得した蓮池町第10区50名

輝かしい国語講習会の修了式——府内蓮池町第10区区長の久保田修三さんと昌慶青年隊の河原良雄さんは去る7月、6回目を迎えた大詔奉戴日を期して国語講習会を開講し、これまで多くの成果を収め、9月の大詔奉戴日である8日には3か月間の講習を終え、遂に輝かしい修了式を行うこととなった。これまで50余名の講習生は立派に国語を解得することになったが、このような成果の裏には、学校で教鞭をとっている多忙な身であるにもかかわらず、毎晩講習に力を注いで下さった□□攻玉学校教員の完山〔くじやま〕光子さんと半月の金澤景淑さんの努力がこもっており、区内で賞賛の声が高いという。更に同区では第1回の講習に引き続き、第2回講習会を準備している。

「毎日新報」1942年9月10日付朝刊4面中東版

京畿道民300万のうち国語未解者100万／道当局が全解運動に積極的に邁進

眞の皇国臣民たらんとすれば、2,400万の半島同胞が1人残らず国語を常用することだと、京畿道ではこれまで都市、農村を問わず、あらゆる方法と機会を利用して国語普及に全力を注いできたが、このたび道ではこの運動がどの程度の成果を収めているのかについて調査し、今後の運動遂行上の参考資料をつくるために、道内府、郡別の国語未解者を一括集計した。これによると、10歳以上50歳までの国語未解者がおおよそ100万名に達するという状況である。この統計から見ると、成績が悪いのは農村で、農村では臨時青訓講習、青年隊講習、儒道会講習、大日本婦人会講習などにおいてこれら未解者の啓蒙に最善を尽くす予定だが、各府、郡の未解者は次の通りである。

京城府	352,136	仁川府	92,305	開城府	39,282	高陽郡	60,760
広州郡	45,482	楊州郡	60,470	漣川郡	36,864	抱川郡	34,071
加平郡	20,809	楊平郡	40,399	驪州郡	33,846	利川郡	34,865
龍仁郡	40,083	安城郡	43,288	平澤郡	41,486	水原郡	88,317
始興郡	36,759	富川郡	32,952	金浦郡	33,842	江華郡	34,129
坡州郡	31,299	長湍郡	32,250	開豊郡	42,924	合計	1,308,623人

「毎日新報」1942年9月10日付朝刊4面中東版

江原道庁員家族／国語講習会開催

【江原支社発】江原道庁協和会では、模範となるべき道庁職員の家族で国語を解し得ない者（特に家庭の中心たる主婦）たちに国語を習得させようと、3か月間の短期国語講習会を開催するという事は既に報じたところだが、予定通り去る7日午前10時から春川□監理教の礼拝堂で開講式を挙行した。開講式には道庁職員たちの家族である主婦50余名が出席したが、特に松本参与官と和永総力課長が臨席し、松本参与官からまず時局の重大性と半島婦人の覚悟についての言及があった後、皇民となるには国語から

知らなければならないという必要性を強調したあと、講習期間中に熱心に習うようにとの訓話があり、和永総力課長からも同じ意味のさまざまな注意の話があった。その後、講習会を始めたが、初めて「アイウエオ」を習う婦人たちの顔には、皆かたい決心がうかがわれ、とても頼もしく見えた。講師は総力課の婦人嘱託牧山女史と農政課の金本婦人教化主□のお二人で、当日出席できなかつた婦人たちも多数受講することを望んでいるという。（写真は開講式）

「毎日新報」1942年9月11日付朝刊4面京城版

新水町国語講習修了式

府内新水町槿昌学院主催の国語講習会は6月1日に開講した後、9月5日でその第1期講習を終えたが、その修了式は同日午後8時、同校の合併教室で盛大に挙行された。蛍雪の功を積んで卒業した生徒は25名で、すらすらと国語で答辞を読む優等生もいた。

「毎日新報」1942年9月11日付朝刊4面京城版

龍雲町でも国語講習

【仁川】仁川龍雲町町会では、同町内の家庭婦女子を中心に国語講習会を開き、班常会でも会話をする程度を目標に、毎日午後7時から2時間ずつ同町会の松谷会長と大島理事が1日交代で毎日教えることになった。

「毎日新報」1942年9月13日付朝刊4面中東版

国語全解総力戦／金化では本報国語毎新を教本に

【洪川】洪川の儒林層では本運動の真意に感激し、国語講習会を洪川警察署と協力して、洪川儒道会では郷校を中心に会員を募集した。そして、15歳以上20歳までが甲組、21歳から50歳までが乙組の2組に分かれて現在受講中だが、本郡の国語運動はもちろんのこと、その他の青少年男女たちの講習会と共に非常に徹底して進められている。

【南川】南川では国語奨励から一步進んで国語常用を提唱しているが、南川署では皇国臣民として国語常用が絶対的な必須条件だとし、事件の有無を問わず、当署に出入りする者で国語を解し得ない者は必ず能解者、即ち通訳を伴って出入りするよう一般民衆に周知させるとともに、積極的な国語普及に万全を期している。

【金化】金化郡では郡総力聯盟の後援のもと、面ごとに夜学会を開催し、また愛国班常会の時に本報の国語欄を教本として国語全解運動に邁進している。当局もしくは郡総力聯盟では郡内に本報を普及拡張させており、特に本報を教本とする夜学会は同郡の昌道面であるが、婦人会員300余名が毎日集まって国語解得に力を注いでおり、その中には62、3歳の老人もいて、面民を感激させている。

【果川】国民総力果川面聯盟では、去る5日から面内22か所の国語講習を開設して一斉に開講式を挙行政したが、第1回受講者総数は男女合わせて600余名に達する。

【議政府】楊州郡管内の各面を通じて、国語常用家庭として表彰を受ける家庭は113戸で、面別に見ると次の通りである。

楊州面48、桧泉6、伊淡5、陰県4、白石5、長興4、別内8、和道6、瓦阜4、漢金6、九里4、芦海13

【新幕】瑞興郡では愛国班毎に国語未解者を網羅して講習会を開催するということは既に報じたところだが、蓮村瑞興郡守は特に郡下の職員の家族で国語未解者がいるのは遺憾なことだと、去る3日から毎日午後2時から午後5時まで当地の幼稚園の建物で郡職員の家族の国語講習会を開催した。講師は同郡庁の安岡振興主事で、一般民衆は熱心に受講しているという。

【洪川】国民総力洪川郡聯盟では、管下の各聯盟員の国語全解を目標に、去る7日午前9時から管下の国民学校長を招集して一大猛運動を展開することになった。

「日曜版国語教室」1942年9月13日付1面〔原文のまま〕

国語講習會

ほんしゃ（毎日新報）でこくごのかうしうを四つきしましたこのほどそのしうれうしきのとき金川社長はこのやうなあいさつをされました。

みなさんは四つきのあひだねっしんにこくごのかうしふをうけてけふをもってをはりになります。こくごがみなさんのためにどれほどたいじであるかはちょっとしなものをかひにみせへはいつてみてもわかります。なほこうぢやうないのきかひやかつじなどもこくごのなまへになつてゐるからどうしてもこくごがわからないとふじゆうであります。こんどのかうしふでおぼえたこくごはかならずいかしてへたでもい、からしやないでだけでもつかふやうにしてもらひたい。このつぎはたかいていどのかうしふをひらくつもりだからいまのまゝにとどまらずこくごまいしんでもつねによんでべんきょうしてください。（しやしんはしうれうしきのありさまです）

「毎日新報」1942年9月22日付朝刊4面中東版

国語普及に邁進／開城府で講師訓を明示

【開城】開城府聯盟主催の国語普及講習会は、去る2日から府内25か所の講習会で一斉に開講式を挙行した後、老若男女3千余名の講習生は熱心に講習を受けているが、府聯盟では講師の心得を十分に理解させる一方、これに対する徹底を図ることにし、講師訓を明示して平原府総力係主任が講習会を時々巡回をしながら激励している。